

587
11



0004364-000

587-11

ムッソリーニとその思想

高島素之・著

実業之世界社

昭和3

ABB

高 畠 素 之 著

ニ ー リ ソ ッ ム

想 思 の そ と



東 京 實 業 世 界 社 發 行

著之素畠高

ニーリソム

想思のそと



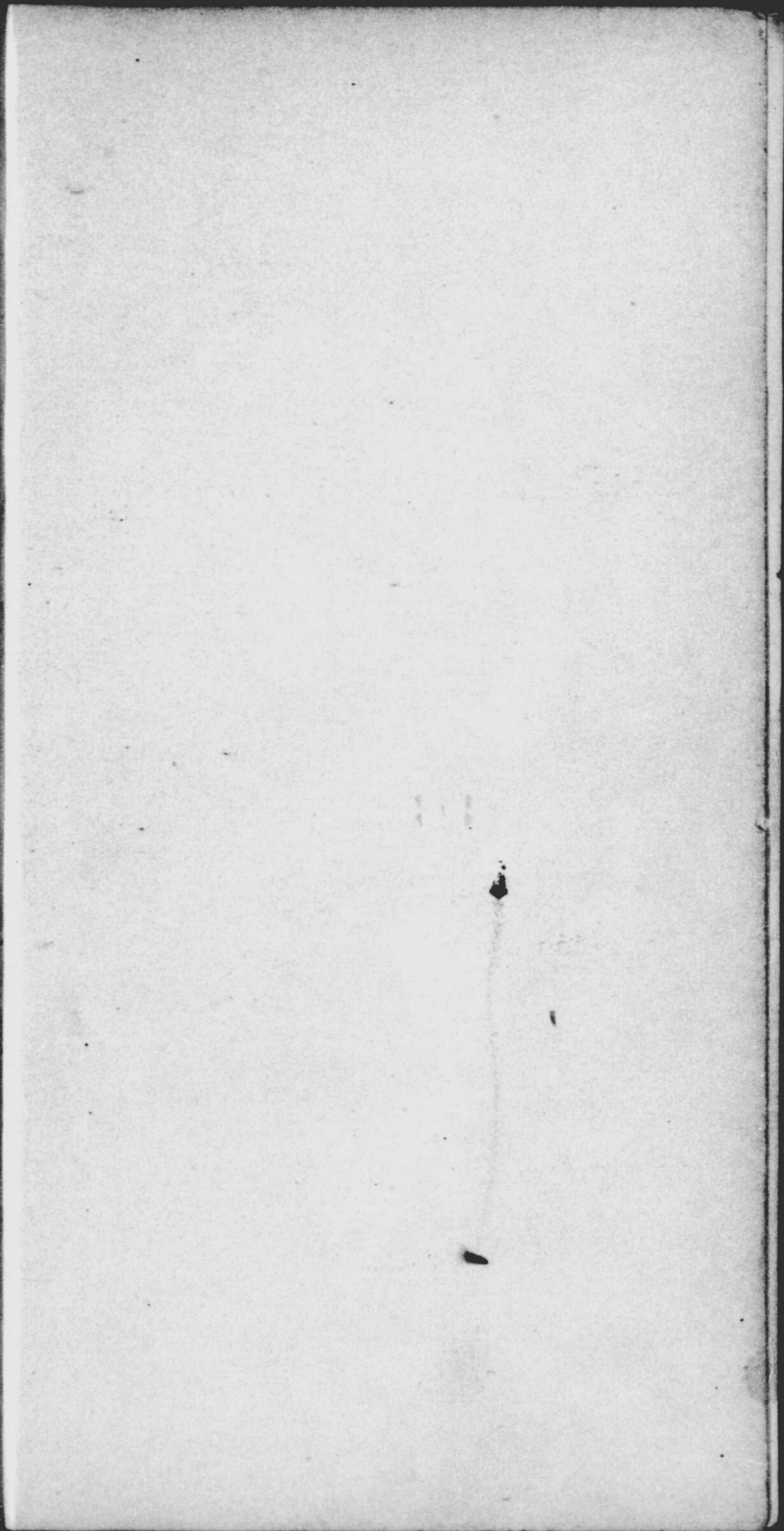
行發 社界世之業實 東東

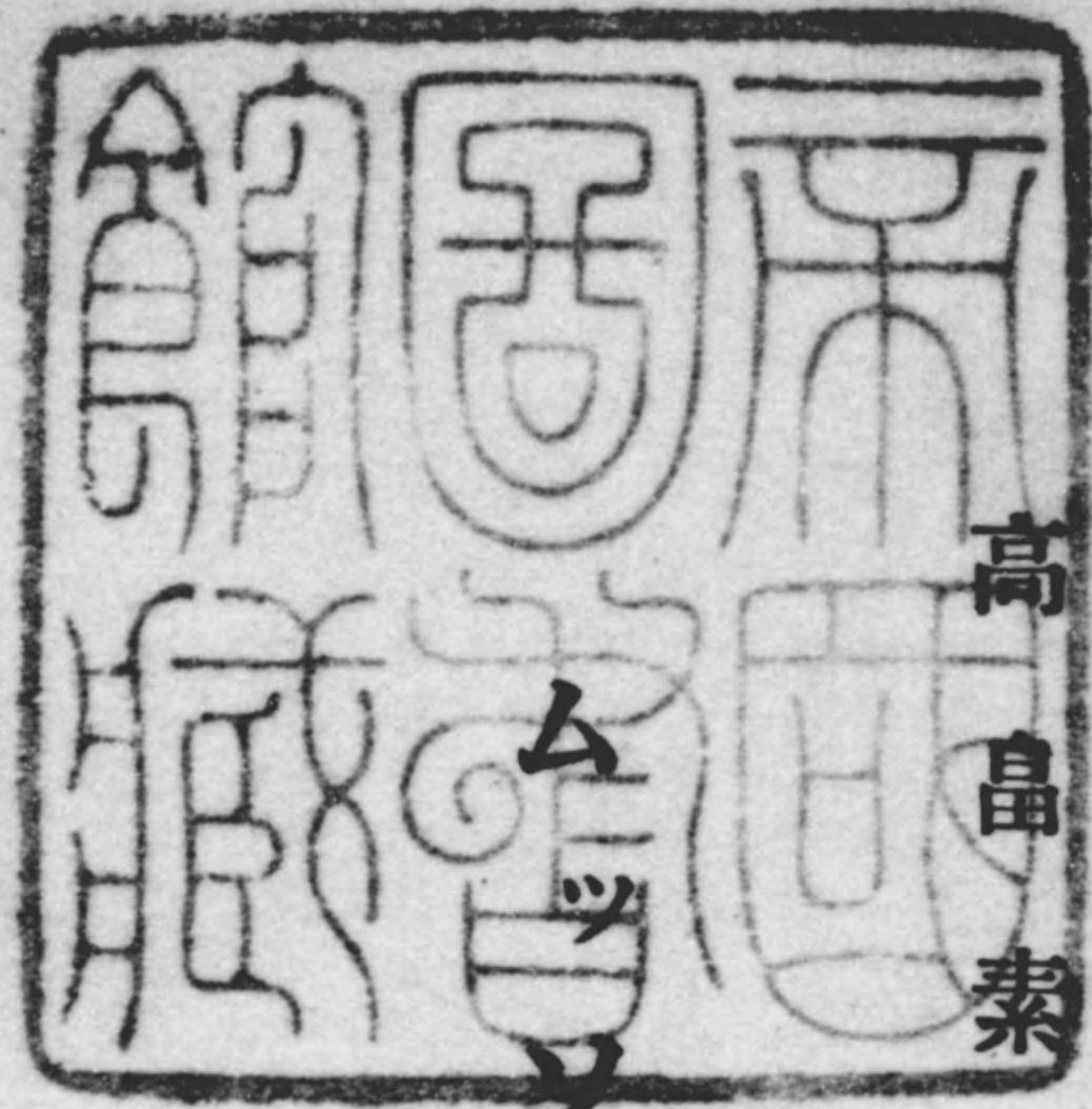
百 廿 五 十 五

五 十 五

五 十 五

四





高島素之著

リニとその思想

東京 實業之世界社發行



序

社会黨、共産黨などの謂はゆる赤化勢力に對し、ムツソリーニが國民主義的民衆勢力をでっち上げて對立させたといふのは當らない。でっち上げて對立させたのではなく、敵の地盤をその儘そっくり奪つさらつたのである。だから、ファスシオ労働組合も、赤化労働組合も、組合員のガソ首においては本質的に大した相違がない。イタリヤの組合労働者たちは、數年前インターナショナルを絶叫したその同じ口から、今やファスシオ萬歳を絶叫してゐる。

そこがムツソリーニの偉いところでもあり、面白いところでもある。斯ういふ遣り口は、サイドに酔ッばらつて風車につき當るやうな酔いどれ的英雄には逆も望まれない。流石は多年社会主義で叩き上げて失敗した功むなしからず、敵の手くだも、戦術も、陣營も、すツかり呑み込んでの大仕事だからたまらない。

我が上杉博士はムツソリーニを市井一介の無頼漢と罵つて、日本の國家主義者たちが彼れにかぶれんとする傾向を戒められたが、心配御無用、日本には水鳥の羽音で敵の陣營を夢幻的に

過大視したがる愛國者はごろ／＼してゐても、敵の戦術と理論に深入りしてそれを味方の武器に適用し得るやうな、そんな氣のきいたムツソリーユかぶれは、鐵の草鞋で探し廻つても當分は見當る氣づかひがない。

本書第二篇「フアスシオの生涯から組閣まで」は、友人津久井龍雄君の執筆を私が手入れしたものである。

昭和三年六月十日

著者

目次

序……………一

○ムツソリーユ論……………一

一、映畫『永遠の都』……………一

二、蛇は寸にして……………五

三、天に聲あり……………一〇

四、毒を以つて制す……………一六

五、水火を辭せず……………二〇

六、武器を逆用す……………二五

七、多面錐體の頂點……………三〇

八、盲人の象探し……………三五

○フアスシオの生涯から組閣まで……………四〇

一、國亂れて……………四〇

二、健闘むなし……………	四三
三、英雄起つ……………	四七
四、二万の兵兒……………	四九
五、黑色恐怖！……………	五四
六、議會的進出……………	五八
七、七擒八縱の辣手……………	六三
八、羅馬へ！羅馬へ！……………	六八
九、光榮の日……………	七五

○ムツソリーニズムと國家社會主義……………

一、彼れの稚氣と街氣……………	八〇
二、彼れのプラグマチズム……………	八二
三、歴史の必然性無視……………	八七
四、人類のエゴイズム……………	九〇
五、支配機能の確立……………	九二

六、彼れのオボルチュニズム……………	九七
七、デモクラシーと獨裁主義……………	一〇一
八、産業上の自由主義……………	一〇五
九、ムツソリーニズムの將來……………	一一〇

○ムツソリーニ主義記……………

一、世界舞臺の三人男……………	一一五
二、誤解されたムツソリーニ……………	一三一
三、國家サンヂカリズム……………	一四〇
四、フアスシズムの産業政策……………	一四四
五、ムツソリーニを見る……………	一五六
六、ムツソリーニは非『皇室中心主義』……………	一七二

ムツソリーニとその思想

高 畠 素 之 著

目次
一 ムツソリーニの思想の概観
二 ムツソリーニの政治思想
三 ムツソリーニの経済思想
四 ムツソリーニの社会思想
五 ムツソリーニの教育思想
六 ムツソリーニの宗教思想
七 ムツソリーニの文学思想
八 ムツソリーニの藝術思想
九 ムツソリーニの科学思想
十 ムツソリーニの歴史思想
十一 ムツソリーニの地理思想
十二 ムツソリーニの法律思想
十三 ムツソリーニの倫理思想
十四 ムツソリーニの哲学思想
十五 ムツソリーニの宗教思想
十六 ムツソリーニの文学思想
十七 ムツソリーニの藝術思想
十八 ムツソリーニの科学思想
十九 ムツソリーニの歴史思想
二十 ムツソリーニの地理思想
二十一 ムツソリーニの法律思想
二十二 ムツソリーニの倫理思想
二十三 ムツソリーニの哲学思想

ムッソリーニ論

一、映画『永遠の都』

明けて一昨年の暮、それも押つまつた二十三四日頃だつたと思ふ。映画の變り目とあり、例によつて例の如き怪奇的な廣告が夕刊に巾を利かしてゐた。中で一つ、特に興味を刺激されたのは、東京館の『永遠の都』といふ題名のそれである。『伊太利首相、黒襦衣團首領ムッソリーニ氏主演』なる字前味噌を、まさか文字通り盲信した譯でもないが、米國の某映画社が伊太利までロンドンに出掛け、フアツシオの宣傳寫眞を撮影したといふ噂を聞いてゐたので、傍ら彈壓の片鱗を瞥見せんとする茶氣も手傳ひ、氷雨そぼ降る中を御苦勞にも淺草まで遠征した。ところが、主演といふ觸れ込みにも拘らず、肝心の『彈壓』は大會の席

上で演説してゐる實寫と、コンスルのデスクに倚つてペンを走らせてゐる實寫と、それも背の明星よろしくチラリと姿を見せるだけ、片鱗を捉へやうにも近眼をかこつの外なかつたことを記憶してゐる。

しかし、その臍げな視力を通して瞥見し得た印象は、一言に盡せば妙に化物染みた感じだつたことである。普通の人間に比較すると、顔の造作ばかり厭に大きく、蛙蟪を二つ重ねたやうな上下の唇を動かして、面積的にも體積的にも巾廣で部厚な手を振り、その顔に比較して尙ほ且つ大きい慈姑のやうな例の白眼を剥かれた時など、どうやら梅幸の四谷怪談を見るやうな不氣味さを覺えた。相貌に於ける斯うした畸形感、彼れの思想乃至性向と不可分の關係を有するらしく、若し東洋流の面ら魂といふ言葉が許されるならば、この不氣味にして不均整な相貌こそ、彼れの全豹を表象する運命でなければならぬ。鍛冶屋の俵から小學教師となり、それから革命的サンチカリストの群に投じ、乞食の如く官憲に追ひまわされた

身を以つて國家中樞の獨裁權を掌握せるまで、その數奇無限の過去は言はずもがな、「反動的」行動に出でながら、所謂反動派と抗争し、社會主義的政策を採りながら所謂赤色派を排撃する現在と雖も、彼れの出頭没頭は飽くまで常人の格調を破つてゐる。隨つて彼れを、何れの意味からしる一個の類型として見るのは誤りで、特に一定の主義に對する殉教者と解するの誤りである。

現に彼れの實際家たる面目は、右の「永遠の都」なる一篇の筋書によつて明瞭に看取せられる。當時の記憶にして誤りなければ、ドイツと稱する親なし子が、乞食の手から救はれて平和主義の老學者に養はれ、その娘との熱愛にも拘らず祖國の難に赴いて戰場に馳驅しやがてはフラスシスチに投じて赤色暴徒と戦争成金とを退治る、といふのが大體の経緯であつた。

お定まりの藝術的價値を云々する段になれば、古都羅馬を背景とせるモツプの扱ひに多少

の感心があつたのみで、主人公に扮したバート・ライテルも、女主人公に扮したバーバラ・ラ・マールも、敵役の成金に扮したライオネル・パリモアも、共に俗臭紛々たる米國映畫の低級さを呆れさせたに過ぎない。が、唯だこの一篇中のモテイヴとすべきフラスチの宣傳的効果からいへば、隨所に感心させられる部分が多かつたのは事實である。即ち無名の一青年が、平和主義や戀愛感情を突破して國族に忠良なりしこと、同じくその立場から非國民的な暴徒や成金を蹂躙すること、而もその故に「馬の骨」たる分際を以つて、彈壓宰相から最高の名譽と戀愛とが是正されること、等、等、等。大手撈手から黒襪衣團の功德を宣傳する用意周到さは、どうして「初戀の味」で賣り出したカルピス主人の料金負擔で、新聞全頁のメツセージを日本國民に廣告した以上の手際である。

それもこれも、莫迦らしいといへばそれ迄だが、氣恥づかしさを一段の高さから克服し、清濁併合の氣持ちに直入し得るところは、生れながらなる彼れの偉大さを表明したものであ

る。この稚氣あり、この衒氣あり、而してこの洒落氣あつて、初めて有象無象を掻き集め得たのであらうし、同時にまたこの烏合の衆を以つて天下を取り得たのであらう。その點、彼れが常に比較されるマッチニーなどと違つた意味で、或る時代的な新しさを感受せしめる所以である。

以下すこしく、彼れの生涯と人物について妄評多謝するつもりであるが、當否の判斷は素より勝手に下して頂きたい。

二、蛇は寸にして

ムツソリーニ、その名をベネトー、一八八三年七月二十九日伊太利は東海岸のフォルリク縣アレツクピオといふ寒村に生れた。父はアレツサンドロといつて鍛冶屋を業とし母はロトザといふ女教員である。兄弟は二人、弟のアナルドは後年に兄貴の新聞經營を助けフア

スシスチの隠れた功勞者となつた。甚六にも拘らず、ペニトーは手に負へない腕白小僧で、三ツ兒の魂を多分に蔵し、近所近邊の憎まれツ子で通つてゐた。それでも母親の希望で、どうやら師範學校だけは卒業し、十九歳の時に初めて小學校の教員となるを得た。當時の彼は、腕白の名残りを留めながらお多分に洩れぬ青春の憂鬱に陥り、些か鬼の霍亂たるを免れないが、暇さへあれば文學書を耽讀し、自分でも進んで詩や小説を書いてゐたと傳へられる。傳記によれば、それらは總て天才の閃きが輝いてゐたとあるが、素より眞偽の程は保證の限りでない。

しかし根が傲岸不屈で、而も野心勃々たる彼であつたから、間もなく教員をやめ、井中の蛙が大海を志す煩悶よろしくあつた後、僅かばかりの金を懐ろにして瑞西に出發した。ちやうど國境に差しかかつた折りも折り、新聞紙は彼れの父親アレツサンドロの捕縛を傳へた。

元來、彼れの父は堅氣の鍛冶屋を生業としてゐたが、この子にしてこの親ありの譬に洩れず、深くもバクーニンの思想に傾倒し、土地の社會主義者達の親分として通つてゐた男である。茲において流石のペニトーも、行かうか戻るか岐路に迷つたが、ままよ乗りかかつた船といふので瑞西に向つた。だが、憧れの瑞西も決して彼れのために「幸ちある國」ではなかつた。パレトーの社會學を聽かんがため、あらゆる勞働の苦しみを耐え忍んだものの、遠慮なく餓死の危険は切迫する。浮浪人として拘留される。各地を轉々する中に諸國の亡命客と知り合ふやうになる。それに親譲りの血潮も手傳つて遂に勞働階級の中に投じ、組合の組織や罷業の指導に専念することになつたのである。それがため彼れは瑞西官憲から追放される結果となり、河岸を代へ佛蘭西に渡つたものの、そこでも同様な運命は彼れを待ち設けてゐた。唯だしかし、佛蘭西遊行が彼れに幸ひしたところは、多くの革命的サンチカリストと交る機會を得たことであつた。殊にジョーチ・ソレルからは、南歐人特有の熱情をいやが上に

も煽られ、總同盟罷業によつて遂行する革命の烽火に、詩的興奮を喚ばれるところ多かつた模様である。後年、彼れがフアスシスチ運動を起すに當つて採用せる戦術は、直接に當時の影響を反映せるものであつて、フアスシズムそのものも理論蔑視の傾向に於いて多分にサンヂカリズムと類似してゐるのは、かうした因縁からに外ならない。

佛蘭西を追はれてやむなく歸國すると同時に、彼れの唯一の安息所たりし慈母を失ふ悲運に際會した。母の死によつて蒙れる心的打撃は餘程ひどかつたものらしく、一時は悲嘆の餘り失神状態に陥り、暫らくは病床から離れなかつたと傳へられる。病氣恢復と同時に、天涯孤客の感じを痛切にした彼れは、又もや埃太利に入り、トレントの社會主義新聞「國民」の編輯人となつたが、茲でも筆禍を買つて三度目の追放命令を受けたのである。

斯うした周囲の迫害は、性來の負じ魂を一層昂揚し、社會主義による祖國革命の決心を却つて鞏固ならしめた。即ち故郷フォルリク縣に於いて週刊新聞「階級闘争」を創刊する一

方ソレル仕込の新知識を傾け、他日の總同盟罷業に備へるため各工場の「細胞」組織に専念した。それがため、翌年は黨の幹部會に擧げられ、その翌年はミラノに於ける社會黨中央機關紙「前衛」の主幹となるなど、一躍して押しも押されぬ領袖の地位を獲得したのである。

以上は一九一〇年から一三年まで、僅か數年間の記録であるが、彼れはその間に於いて妻を迎へ一女を擧げたほか、トリポリ戦争に反對して投獄される等、一身上の變化も経験した。而も彼れの非戦論の論據たるや、社會黨流の常套口吻とは全く異り、國家に利益あれば植民戦争も大いに結構だが、この戦争は何等の利益を齎さないから反對だといふにあつた。言ふまでもなく、黨の領袖たる彼れが斯うした議論を公表したことは、物情を騒然たらしむるに充分である。曰く、餘りに國家主義的である、少しも社會主義者らしくない、といふのが非難の中心であつた。だが、ムツソリーニは「予の要望するところは經濟的並びに精神的の二重なる貧困より國民を救ふにある」と豪語して、介意する色はなかつた。

斯うした経緯が、彼れと他の領袖達との確執を來たすは當然である。彼等は彼れを非難し、彼れは彼等の民主主義的弱氣と朋黨的妥協性を輕蔑し、好んで喧嘩を賣つて出たものである。「愛と憎しみの網の目が十重二十重に身邊を圍んでゐたから、寂寞たる人生も耐え得られた」のであらう。彼れのこの述懐によれば、寧ろ鬪犬と同じやうな生理的必要から、喧嘩を賣つたものと見える。また曰く、「予の半生は、勉強、鬪争、貧乏の三字に盡くされる」と。實際その頃の彼れは、五十圓に足らぬ収入で生計を立て、邊幅を飾らず、粗食に甘んじ、無精髪のまま黙々と讀書に耽り、時に得意とするヴァイオリンを奏でて、僅かに憂ひを慰めるに過ぎなかつた。

三、天に聲あり

幾多の同僚との斯くの如き確執にも拘らず、ムツソリーニの迫眞力と實行力とは、依然黨

内に重きをなすに充分であつた。随つて彼れを支持する黨員も多く、また随つて、領袖たる地位も主幹たる地位も搖ぎなく、寧ろ一九一三年から一四年にかけての彼れは、社會黨の唯一者として自他共に許してゐたのである。

斯かる形勢を持続する間に、世界大戦は勃發した。伊太利はこの時に際し、聯合側と協商側とから必死の誘引に攻められ、國內の輿論また甲論乙駁といふ有様で、久しくその態度を決し得ないでゐた。社會黨は一も二もなく參戰に反對し、ムツソリーニもその機關紙に於いて伊太利が中立を嚴守すべき所以を切言したものである。

然るに如何なる理由か、ムツソリーニは翌十月に至り、突如として黨の決議を破り、嘗ての自説を抛つて對埃宣戰を布告すべきことを主張し、同時に「前衛」を棄て新しく「伊太利國民」なる日刊新聞を創刊し、椽大の筆を揮つて主戰論を力説高調したのである。

その變化たるや實に突然である。バイロンの故智を學ぶなら、一朝眼覺れば、非戰論者ム

ツツリーニは主戦論者ムツツリーニに誕生してゐたのである。

ムツツリーニの斯くの如き態度豹變が、抑々何に因由するかといふ詮索は、全く不明であると共に全く不用である。或る傳記者はこれを評して、聖書に於けるポーロの轉機に比較し凡人の測り知るべからざるインスピレーションのせゐにしてゐる。必ずしも荒唐無稽の痴言として葬り去るべきではない。元々ムツツリーニは、合理主義を排斥するサンチカリストであり、直感主義のベルグソン哲學を間接的なりに繼承する者である。その限りに於いて、飛躍はサンチカリストの特性であつて、彼れの影響者ソレルが加特力の僧院に隠遁した心理經過と、尙ほ具體的には山川均氏が議會主義に豹變した心理經過と、靈犀相通する所があるものであらう。それかあらぬか、山川氏が自己の豹變について何等の釋明を試みられたことがないのと同じく、ムツツリーニもまた嘗て彼れの所謂豹變につき辯解を試みたことがない。しかしインスピレーションの效能を知らぬ我々だが、他人の疝氣を頭痛に病む程度に解釋すれ

ば、凡そこんなことでもあらうかと目安だけつけられる。即ち戦争によつて、國民の悪習と文弱を一掃し、對外的には伊太利の國際的地位を向上せしめると共に、對内的には經濟生活の革命を斷行し、延いて社會的價値の觀念を變更せんとした一事である。ムツツリーニに於いては、斯かることが伊太利革命の意義と解されてゐたのである。蓋し彼れがその演説で露西亞のポリシエキー革命とこれを對比し、「伊太利はフラスチ革命を斷行した」と自讃してゐるのは、全く斯うした理由に出づるものと思はれるからである。

それは兎にかく、ムツツリーニの主戦論への轉向は、單り彼れの同志のみならず、全國民を驚倒せしむるに充分であつた。社會黨は直ちにムツツリーニ査問の大會を開きつひに大多數を以て除名することを決議した。當日ムツツリーニが要求されて壇上に立つた時である。あらゆる罵詈の聲は雨と降り、熱狂せる群集は身邊ちかく押し寄せて、今にも危險が迫らんかと怪ぶまれた。而も漸くにして口を開いた彼れは、要求された一身上の辯解には一言も觸

れず、やをら伊太利社會黨の攻撃に移り、君等は優柔卑屈で、日和見主義で、小ブルチオア的だとアペコベに毒づき、揚句の果は「諸君の手による伊太利革命は絶対に不可能である」と極言したのである。何と我が自稱革命家の口吻と髣髴たりながら、何とその意氣の相違することよ、と更めて感心するの外はない。

この大會はムツソリーニをして、社會黨と永久の怨敵たるべく運命づけた。不屈傲岸の彼は、これを動機として過速的に社會黨一派と分離し、やがては「反動的」諸分子と聯繫する結果を助長したとも言ひ得る。

「伊太利國民」に據れるムツソリーニは、何人の掣肘をも受けることなく、聯合側加盟の輿論喚起に努めてゐたが、翌一五年五月に至り愈々伊太利は參戰に決した。多情多感な彼は義勇兵を志願し、漸く許されて伍長に昇進したが、一七年二月カルソーの大戦に敵弾を浴び重傷の身を松葉杖にすがつて歸休しなければならなかつた。その後の彼は不眠不休で活動を

續け、筆陣に舌陣に倦むところを知らぬ有様であつた。

「國家は否定すべきでなく、克服すべきである。民主主義とは標準を下げることでなく、下層階級をヨリ高い標準に上げることである。『今度の戦争は最初の中こそ民主的であつたが、今では大分貴族的になつてゐる。大衆の中から選ばれた最良の闘士よ、これが今日の最大問題である。』實にムツソリーニの主戰論はそれが支配階級への迎合に非ずして、大衆の意志伸揚に外ならなかつた。

而してあらゆる舊套的なもの貴族的なもの爆碎こそ、彼れが戦争参加によつて達成せんとした目的らしく考へられる。『伊太利は未だ若い。澄澗たる生命を有してゐる。しかしその政治形態は、餘りに老朽して役に立たない。』

ムツソリーニがファシズム革命の雄圖を、既にその當時から計畫してゐたといふのは、果して最良の引き倒しとのみ言ひ得るであらうか！

四、毒を以つて制す

論理的に見たフラスシズムは、デモクラシーの無力と無爲とに對する反抗として生れたと言ひ得る。それはムツソリーニが、議會政治を目して「その政治形態は、餘りに老朽して役に立たない」と、喝破したことに於いて有力に證據立られる。實際、戦前から戦後にかけての伊太利議會は、十三乃至十七の小黨に分立し、責任組閣の實力を有する政黨なきこと、恰も獨逸や佛蘭西の例と同じであつたが、その亂脈は兩國に比して更らに甚だしきものがあつた。そこで已むなく、プロツク・システムによる聯合内閣を組織し、辛うじてその日暮しの政治を行つて來たが、歴史的並びに階級的な利害の複雑性は各黨をして相互に三すくみの状態たらしめ、些かも政治の實績を擧げることが出来なかつた。こんな鹽梅であるから、伊太利の議院政治は最初から腐敗の歴史を繰返し選挙干渉、官權濫用、投票買収、暴力行使とい

つた罪惡が無遠慮に繰返された。而もその複雑な政局は頻繁に政變を馴致するところから、解散に次ぐ解散といふ具合で、ますます議會の腐敗を助長した傾きが多い。

他方、社會的に見ても、伊太利は天然の資源に薄く、産業は萎微して振はず、それがため勞働階級には「危険」思想が充満してゐた。殊に戦後に於いては、さらでだに疲弊せる國力が著しく疲弊し、産業の沈滞は各方面に失業者を出だすといふ状態で、財政の窮乏は言語道斷であつた。斯うした社會的不安は各地のストライキを誘ひ、勞働者の工場占領は病的流行となり、社會主義者や共產主義者の傍若無人ぶりは、ますます露骨に發揮されて底止するところがない。而も無力なる政府は、これを徒らに拱手傍觀するの外なく、露西亞に次ぐ伊太利の革命は單なる時日問題と觀測されたのである。

ムツソリーニがフラスシズムを次第に膨脹せしめ得たのは、巧にこの氣勢を利用したからである。即ち赤色分子の反對毒素として、その亂行に正比して内容を増大し、在郷軍人、青

年學生、農民等、雑多な分子のこれに來たり投ずるもの次第に多きを致すやうになつた。ムツソリーニは彼等に克己と奉仕とを誨へ、秩序と訓練とを與へて、瞬く間に不動の勢力となるを得たのである。

事態が斯くなる上は、所詮赤色分子との衝突は免れない。最初の衝突はボロニヤに於いて行はれた。對手は一トたまりもなく黒襦袢に蹴散らされ赤色派の出鼻はやや挫かれた形である。加ふるに社會黨は内訌に内訌を重ね、黨員のヒステリックな騷擾が人氣を損ねた上、中央部に於いても、戦後ニツチ内閣に迫つて凱旋軍人の入京を阻止し凱旋門の撤去を行はしめたのに味を占め、陛下の勅語奉讀に革命歌を以つて酬いるといった狂燥的態度を示すこと多く、ますます人氣を喪失したのも自業自得である。

社會黨の勢力失墜するを見るや、フアスシスチは幾何級數的に増大した。そして翌二一年には、僅か三月の間に死傷者五千名を出だす程の猛威を逞しうし、やがて解散後の總選舉

に際しては、一躍四十名の代議士を議會へ送る程の表面的勢力となつた。四十名の議員は素より議會を左右し得る勢力でない。だが、赤色派抑壓を以つて目前の關心事とする反社會黨聯合は、實際的に黒襦袢の暴力的保護を必要とする餘り、フアスシスチ黨に厭でも應でも屈伏せねばならなかつたのである。

ムツソリーニこそ旭日昇天の勢ひである。彼れは斯くして政争の眞ツ只中に乗りだした。そしてボノミ内閣を威嚇して退かしめた上、酢だの菟蕪だのと駄々をこね、オルランド、デ・ニコラ、チオリツチ、フアクタと堂々めぐりをさせた揚句、最も無力なフアクタに政權を取らせた。ところが上り氣味のフアクタは、目前の急場を凌ぐべく社會黨案の財産税重課を探用したといふので暴れ出し、たうとうこれを倒してしまつた。斯くて伊太利は、又もや無政府状態に陥つたが、フアスシオの暴力威嚇と社會黨の罷業威嚇に震えあがつた政治家共は誰一人組閣の責任を引き受ける者なく、やむを得ずフアクタに改造内閣を組織せしめた。

「今や伊太利には二個の政府が存在する。一はファクタによつて代表される虚偽の政府であり、他はファスシスチによつて代表される眞實の政府である」——この傍若無人な宣言をなしてムツソリーニが堂々五十万の黨員と三十万の義勇兵とを擁して羅馬に進出したのは、それから僅五十餘日目のことである。

五、水火を辭せず

伊太利に於てファスシズムが如何なる社會的乃至政治的必然を胎んで生れたかといふ問題は、如上の概観で簡單ながら大體の見當がついたことと思ふ。そこで今度はファスシズム又はファスシスチについて、いさ少し分析的な調査を進めて見たい。

先づ最初に、ファスシオといふ言葉の意味から詮索したい。これは「縛り合つたもの」即ち「結束」といふ意味なさうである。一論には古代羅馬時代にファスシと稱する飾杖があつ

て、それが正義を象徴する武器として、尊重されたところから出たといふ人もある。しかし下位春吉氏の説によれば、それは全然虚構の事實なさうである。若し然りとすれば、ファスシオの名稱そのものが武斷的だといふやうな非難は當らぬことになる。

ファスシスチは黨旗として黒旗を用ひ、制服として黒襪衣を着る。黒色が彼等と如何なる因縁を有するのかが詳でないが、恐らく赤色に對する無政府黨の黒色みたいな話しであらう。黒襪衣と共に、彼等には常に佩用するところの徽章がある。それには「メ・ネ・フレゴ」(水火を辭せずとの意)の文字が印刻され、團體的規律を尊重をする彼等の心意氣を表示してゐる。そして例の棍棒を提げ、左手を高くあげ「ア、ヤア、ア、ヤア、アアアアア」と呼び交し、隊伍堂々と市中を練り歩く彼等の示威運動は、さぞ勇壯活潑なものであらうと想像される。

しかし斯うした組織は、ファスシオが政黨的に組合的に大成された後のもので、その最初

は如何に最良目にみても有象無象の烏合であつたことは疑ひない。現にチオリツチ内閣の下に於て、盛んに市井で社會主義者と抗争してゐた頃は、文字通りの暴徒に齊しく、訓練も統制もあつたものでない。蓋しそれは、フアスシオそのものが最初から確固たる理想に統一されたものでなく、國權伸張論者や赤化思想拒否者や、さては戦後の恩賞に不平を有つ在郷軍人やが雜然と集まり、唯事あれかしと喧嘩を賣つたに過ぎないのである。そんな譯であるから、フアスシオ運動の濫觴を正確に指摘することは出来ないが、一般的解釋ではダヌンチオのフイウメ占領を出發點としてゐる。だがそれは單なる結果で、遠くアンリコ・コラデイニの指導する國民黨の活動が濫觴だとする見解もある。何れにもせよ、ダヌンチオも國民黨の活動と無關係でなかつた意味に於いて、彼れとフアスシオとが密接な關係を有することは否定し得ない。

戀愛詩人としてのみ知られたダヌンチオが、現實社會の正面に初めて姿を現はしたのは、

大戰の初頭に於いて伊太利が獨塊に向ひ宣戦すべきことを強論した時に始まる。遅れ走せながら、ムツソリーニも亦主戰論を唱導し、茲に兩者の因縁は結ばれたが、ヨリ緊密な因縁は寧ろ戦後に開かれたのである。

一九一九年十一月、ヴェルサイユ平和會議の結果、ウイルソンとこれを支持する英佛の干渉により、當然その手に歸すべしと思はれたフイウメは嚴しく拒まれ、伊太利國民の憤激は絶頂に達した。この國民的義憤を代表せるダヌンチオは疾風迅雷的に義勇兵を率ゐてフイウメを占領し、彼等の希望が容れられた一九二二年一月まで、獨立國の面目を確保したのであつた。當時彼れの麾下に参じた者は、大戰の凱旋將卒を始め、社會のあらゆる階級の熱情的分子を含んでゐたが、これらは何れも後年フアスシオの中堅要素となつた意味で、ムツソリーニはカヴールに對するマツチニの如く、ダヌンチオの正系を踏襲したとも言ひ得るであらう。

それはそれとし、ムツソリーニが社會黨の復讐に備へんとして第一フアスシオを組織したのは、ダヌンチオのフィウメ占領に先立つこと半歳、即ち一九一九年三月二十三日のことに屬する。最初わづか百四十五人の團體であつたが、創立に際しては一万七千を算し、翌年は三万、その翌年には五十万、今では概算百万といはれてゐる。フアスシチが斯く急速の發達を遂げたのは、前述の如き社會的並びに政治的理由に基くが、而もムツソリーニ自身の時代に對する洞察力は、彌が上にも増大を加へしめた感がある。例へば餘りに遊戯化した議會政治に對する絶望は、他方に何等か壓力的なものを讃仰する氣分を醸成しつつあつたが、慧眼なる彼れは早くもこの傾向に着眼し、暴力行使が烈しければ烈しいほど國民的人氣に投合し得ることを知り、必要以上の暴力行使をも敢てなし、以てその英雄崇拜感を煽揚した如き、時代に對する彼れの明敏なる洞察の然らしむるところでなければならぬ。これ即ち、彼れが一部の軍人や學生のみならず、資本家にも労働者にも、商人にも、農民にも、あらゆる階級

から崇拜を捧げられた所以である。

六、武器を逆用す

『年少にして社會主義者たらざる者は怯懦である。長じてこれを棄てざる者は痴愚である。』これはムツソリーニが、ある自由黨議員から彼れの變節を難詰された時、當意即妙的に答へた遁辭である。しかしそれは遁辭なりに、主義乃至理想といふものに對する彼れの根本態度を語るものである。更にまたいふ。『事實は書物よりも、經驗は教養よりも、ヨリ大なる價値を有する』と。

これらの言葉から歸納して論ずれば、ムツソリーニの思想は『思想そのものを無視する思想』と呼ぶを適當とすべく、隨つてその表現たるフアスシズムも亦何等明確な概念を表示するものでない。少くとも主義の主義たり得るところの積極的意義を捕捉することは困難であ

る。唯それなりに、消極的に斯々の主義と一致せぬといふことだけは明瞭にし得られる。以下すこしく彼れ自身の言葉を通してファスシズムの検討を試みたいと思ふ。

「我等の眼前に於いて現に行はるる戦後の経験によれば、自由主義は既に敗滅したことが證明されてゐる。露西亞及び伊太利にあつては、自由主義的理想を度外視して、立派に統治し得ることを證明した。コムニニズム及びファスシズムは、自由主義の圏外に立つものである。『ファスシズムは一切の偶像を認めず、且つそれを尊敬せざることを銘記せよ。新時代の青年は扮飾せる自由の女神像を蹂躪し、更に必要ある時は、再び舞ひ戻つてそれを蹂躪すべきである。』」

自由主義に對する斯くの如き憎悪は、政治上には議會拒否の態度となつて反映し、經濟上には獨特の勞資協調論となつて展開される。

「私有財産制度より生ずる弊害は、階級闘争主義に代ふるに階級の共同勞働を以てし、勞働尊重の原則を確立することによつて軽減し得る。企業家は勞働者壓迫のためにその經濟的勢力を利用すべきでなく國家の大部分が勞働大衆より成ることに思ひを致し、勞働大衆をして生活不安及び失業状態にあらしむるは、國家の偉大さを減損する所以なるを忘れてはならない。同時に勞働大衆も亦、國家のためにその安寧秩序を脅威するが如きことがあつてはならぬ。」

彈壓宰相に似もやらず、まるで協調會囑託の口吻である。だが、折角の注文を對手が肯じなかつたらどうなるのであるか。ムツソリーニは「それにつけても」と言はぬばかりに言葉を續ける。

「勞働者にも企業家にも恐れず、また煽動政策も金權政策も行はぬ鞏固な政府の存在によつてのみ、社會の平和は初めて保持し得るのである。『映畫「永遠の都」の筋書は、茲において初めて明瞭となつた。ファスシズムは、勞働者のためにも企業者のためにも存しない。唯單

位的に包括した國民のためにのみ存するのである。

然らば國民と國家との關係は如何？「國民は國家を超越すべきである。」「國民は現存する國家の全メカニズムを破却すべきである。」「ムツソリーニの理論は、茲に於いて一般政治學の常識圏外に飛び去つてしまふ。思ふにムツソリーニは、大戦参加によつて急速に昂進した國民的感情と、統一後なほ若くして未だ熱成せざる國家的感情と、伊太利人の斯かるギヤツプをば如實に代表したものであらうが、それにしても強力な獨裁權を主張する彼れが、國民と國家を斯く二元的に解釋するのは不思議である。而も不思議はこれに止まらない。彼れは政治上に於いてこそ熱心な集權主義者であるが、經濟上に於いてはこれに劣らざる熱心な分權主義者である。即ち統一的計畫は政治原則のみに適用し經濟原則には適用しないのである。」「經濟政策上の集權主義は、單に一個の思索方法たるに過ぎない。國家は決して現存する個人の集合に非ず、また經濟上、相互に事業の連絡を有する株式會社でもない。故にもし、各個

人の特性を平均化せんとし、或はその創造性を無視せんとする時は、却つて各個人の生産力を減すると共に、國家有機體の活動力をも減殺する結果となる。」

フアスシズムの斯かる政治的集權主義と經濟的分權主義とを評し、或人は皮肉にも國家サンチカリズムと命名したが、實に戰術といはず、ムツソリーニの思想乃至感情に於いても、多分にサンチカリズムの影響が発見される。例へば、政治蔑視の傾向である。彼れはそれあるが故に、中央政府の退却を平氣で要求したり、傍若無人な獨裁權の執行を要求したり、果はメカニズムの名に於いて合理主義をコキ下したりし得たのである。これ恰も、彼れが目の敵にしてゐるフリー・メイソンと同じく、「國家内に國家をつくる」傾向に似てゐる。

要するにフアスシズムは、未だ星雲時代に彷徨すると言ひ得べく、寧ろその曖昧模糊たるところに、包容性もあり、融通性もあつて面白いとせねばなるまい。

七、多面體の頂點

ポリシエキキを過激派と呼ぶ如く、フアスシスチを國粹團と呼ぶ一般の習慣は、單なる文字の表面的意味により實體と似もつかぬ印象を興へてゐる部分が多い。ポリシエキキもフアスシスチも、今では一黨を以てよく國政を支へ、一定の組織によつて完全に統制を保つてゐるのである。

「我等は美術家はその傑作をつくるために、材料を使用するが如く大衆を利用する」と豪語したムツソリーニも、内外の狀勢平靜に歸るや多少の民主主義的讓歩を聲明してゐるが、依然「命令をなす者は予一人である」といつた獨裁制を多面體の頂點に置いて強行してゐる。即ち内閣總理大臣兼攝四相として國政執行の任に當ると同時に、最高評議會を任免監督し、中央執行部を指揮監督し、國防義勇軍を指揮任免し、更にフアスシスチ國民黨を總裁し、フ

アスシスチ組合團體を統轄する等、千手觀音の如く何から何まで切り廻してゐる。全く驚嘆すべき精力である。

最高評議會はフアスシスチ寡頭政治の最高機關として、法制上には中央執行部を補助監督することになつてゐる。しかしその實、ムツソリーニの獨裁制を飾る樞密顧問官の如く、最高の實務は中央執行部が處理してゐる。中央執行部は集中主義の原則から委員四人制とし、最高評議會の選任にかかるものである。四人の委員は夫々監察局、宣傳局、新聞局、監督局を分擔してゐる。國防義勇軍は、一般軍隊に加はらざるフアスシスチの私設軍隊である。主として政治警察に携はり謂はば反對派威嚇の用心棒なのである。

フアスシスチ國民黨に至つては、黨員みづから首長を選任する資格なく、又みづから團體を管理する權能なき意味に於いて、政黨とは單なる名稱のみである。しかしこれは根が烏合の黒網衣團を中央集權的に組織したもので、國防義勇軍の現役的意義に對する豫備的意義を

有し、早い話が一種の革命機關を司どるに過ぎない。随つて所謂フラスシスチ議員は、彼等によつて選出された彼等の代表者といふ譯ではない。尙フラスシスチ議員について一言すれば、一九二四年の總選舉で、彼等は四十名から一躍三百五十六名に激増したが、それにはカラクリがあつて「有効投票の二十五パーセントを得たる黨派は、下院五百三十五席の三分の二を勝ち得る」といふ、筈棒な改正選舉法で得た數字なのである。勿論この改正選舉法に對しては、各黨が擧つて反對したが、ムツソリーニは得意の彈壓で鎧袖一觸し、遮二無二強行したといふ後日物語りがあつた。

それは借て措き、次はフラスシスチ産業組合である。元來、ムツソリーニはサンチカリスト出身であり、彼れ自身が労働階級の組織と指導の天才であつたことは前述の通りである。随つて彼れが第一フラスシオ運動を起すや、いづれ労働階級をも吸収すべしとは何人も想像した所である。蓋し多數の労働者、少くとも赤色組合に屬せざる労働者は、社會主義者の暴

威と議會の無力とに愛想をつかし、寧ろ黒襦衣團に好感を示してゐたからである。果して幾多の團體はフラスシオの傘下に来り投じ、同時に嘗ての同志たりしロツソニを始め、ベツツオリ、ラツヘル等も参加し、遂に一九二二年ロツソニを指揮者と仰ぐ労働團體が、フラスシオの別働隊として新たに生れたのである。斯くして新フラスシオは日毎に多きを加へ、嘗て赤色暴徒として横行した分子まで吸収し、今では三百万以上に達したといはれてゐる。これだけの勢力となつてしまへば、赤色組合もへちまもあつたものぢやないが、而も今ではこの新分子がムツソリーニを飽くまで支持し、以て極端右翼からの牽制を防禦する位置に立つてゐるから、彈壓宰相の今後の自由な活動は餘ほど面白いものであらうと思ふ。

この産業團體に並行するもう一つの團體は、知識階級によつて構成されるところの組合である。これはチアコモと稱する辯護士が統率し職業的知識階級團體、衛生團體、教育團體の三大組合に分れ、いづれもフラスシオ一流の縦斷的組織を以て固められてゐる。

斯くの如くムツソリーニは、逸早く内部組織を所謂細胞主義で固めると共に、國民生活をものに對しても、國家を強大ならしめるには先づ經濟的効果を擧げよといふ見地から、經濟機能の改善を圖り、鐵道政策を改良し、金屬工業を獎勵し、電氣事業、石油事業等を補助し、さては行政、財政、税制をも根本的に刷新するなど、矢繼早に新政策を實行して僅數年の間に、全く見違へるほどの業績を擧げた。その他對外的には移植民地の開拓を企て、外交政策の如きもニツチ以來の追従主義を放棄し、一流の我無者羅で伊太利の帝國主義を硬論し押しも押されぬ地位を領有するに至つた。

「人にして帝國主義的傾向を有せざる者はない。國民にして強きを欲せざる者はない。若しこれありとすれば、その國民は滅亡する外はない。」フラスシスチ政府は平和を政策とする。我政府は世界の平和を素さんとする意志は毫末もない。ウイルソン流の陳腐な文句を用ふれば、伊太利は正當にして且つ永久的な平和を望むものである。しかしこの平和たるや、我等

の正當にして且つ神聖なる利益を満足せしむるに足るものでなければならぬ。」

その意氣の壯なことは、對内的のみならず、對外的にも何等外交辭令を加へようとせぬ。

この壓力と直情こそ、ムツソリーニの身上といはねばならない。

八、盲人の象探り

多分の稚氣を露出してムツソリーニはいふ。「今や全世界を擧げてフラスシスチの讚美者と呪咀者とに二分されてゐる」と。言や些か奇矯であるが、フラスシズムに對する賛否兩論は全く極端と極端である。これ何に起因するかといへば、盲人の象探りの譬に洩れず、單なる一局面のみを見て感情的に好惡を決定してしまふからである。當時の伊太利に取つて議會的無力と赤色の攪亂とを防止する途は、國民的處女參戰によつて昂揚された愛國的情熱に對し、これに一定の方向を與へて反對毒素となす外方法がなかつたのである。その限りに於い

てムツソリーニの運動は善悪正邪の彼岸に立つ一の社會的必然の現はれと解する外はない。誠にムツソリーニの偉大は無比である。けれども、若し彼れを英國に生れしめたなら、決してあれだけ華やかな事業は成就し得なかつたであらう。時難にして英雄現はるといふ。その筆法から行けば、伊太利の特殊の國難が彼れを生んだといひ得べく、假りにレニンと生國を轉倒せしむれば、レニンもフラスシスチ革命の手段に出でたかも知れないのである。而も單なる外部的結果のみを見て、レニンの革命を共產主義的なるが故に是正(或は拒否)し、ムツソリーニの革命を『反動的』なるが故に拒否(或は是正)するといふ如きは、愚の骨頂といはねばならぬ。齊しく特殊の社會的必然と、國民的性向とに立脚するものであるから、直に以てこれを日本に移殖すべしと考へるのは、餘りに物の道理が判らな過ぎやう。

而も物の道理の判らないのは、何も斯うした連中だけに限らない。例へば横文字心酔派である。彼等が假りに英語を讀めば、直に英語國民の判断を無批判に受け容れ、伊太利の帝國

主義を云々し、獨裁政治を惡魔の權化の如く罵倒する。しかし英國國民が帝國主義を云々するのは、伊太利の強大が直にアドリヤ沿岸その他の利害衝突を豫定するが故であり、米國民が暴政を云々するのは、彼等が神様の御宣託と心得るデモクラシーを遵守しなかつたが故である。しかし伊太利それ自身にして見れば、衣食足つてこそ贅澤もいはうが、國家的破滅を控へて他國の氣嫌氣褻を取つてゐる餘裕があらう道理はない。全く不必要なお節介である。

斯くの如く伊太利にあつては、ムツソリーニの出現も、フラスシスチの生起も、悉く社會的必然に立脚するものである。無論、色々な不平分子もあらうが、謂はば自己の暖簾を取られたことに對する私憤で、これを一々取り上げ強て『輿論』にしなくともよろしい。單なる暴力的脅嚇と熱病的發作の所産と見るべく、フラスシスチの團結は餘りにも組織的であり、且つ決定的である。随つて、ムツソリーニの暗殺が成功しやうがしまいが、フラスシオの勢力は不動と見る外はない。勿論、ポリシエキーに内訌が絶えないやうに、フラスシス

チにも幾多の内訌要素は伏在してゐる。例へば、ムツソリーニの施爲施設を手緩しとし、制止を破つて街頭に頻々暴行をなす右派と、反対に、彼れの政策が無産大衆本位でないと言つて非難する左派との抗争、さては第一フアスシオ(黒襦衣團)と新フアスシオ(産業團體)との確執等、小波瀾は時々あるが、ムツソリーニの旗本たる正統派は結束してフアスシオの大を勵成してゐる。現内相たるフェルデルゾニー、現書記長たるフアリナツシーは、夫々正統派の勢力を代表し、一は表面の女房役たり、他は裏面の留守師團長たり、共にムツソリーニの後継者として思慕されてゐる。更に軍部方面には、年少氣鋭のバルボと老練熟達のパノとがあり、これも後顧の憂ひなからしめてゐる。

今やフアスシオ革命も、破壊時代を経過して建設時代に入つた。元來が多血漢の集團であるから、闘争の外部的標識を失つたために、或はこれが内部の軋轢に轉化せんかといふ懸念もないではない。しかしそれがため至勢力が分裂するといふやうなことは、今のところ先

づ考へられない。恐らく次第に自然的必要から或る程度まで民主化しながらも、ミツ子の面影を示して新伊太利の中心勢力を保持して行くことであらう。

ファスシオの生誕から組閣まで

一、國亂れて

國亂れて忠臣現はるといふが、伊太利の國狀はベニトー・ムツソリーニが出て革命を行はな
いでも何人かが出てそれを行はねば納まりがつかぬ程度に歐洲大戰前後に於いて、混沌紛亂
の極を盡してゐたのである。國士ムツソリーニの出現及びその成就した回天の偉業は、要す
るに、この混亂した國狀の呼び聲に對する極めて自然な反響であつたといふことが出来る。
一體、伊太利といふと、古の羅馬帝國などを想起して、ひどく舊い歴史と堅固な國礎とを
持つた國のやうに考へられ易いが、大羅馬滅亡以後の伊太利といふものは、全く群小國の割
據と相互攻略とに寧日なき有様を繼續し、かのマキアベリが「權力こそ正義だ」と絶叫した

のも、この混亂せる國狀に對する半ば絶望的の詠嘆であつたと見られる。英雄ガリバルチー
が、サロチニア王ヴィクトル・エムマヌエル二世を助けて全伊統一の大業を成し遂げたのは、
漸く我が明治四年のことである。而もこの統一後の伊太利の國狀は、決して我が明治維新以
後のその如く、恵まれた鞏固と發展とを順調に繼續して來たものではなかつた。

伊太利の憲法は、サルチニアに立憲政治を布くため一八四八年に制定せられたものを、大
した改訂を加へることもなしに、統一後も襲用して來たものであるが、伊太利の議會政治は
何故か、既に出來た當初から腐敗汚濁を極めてゐたのである。伊太利の君主權は、英國のそ
れ程まで無力なものではないが、實際上總ての政治的決定及び行動を閣員に委任してある。
そして憲法の中に明示されてはゐないが、閣員は實質的に下院に對して責を負ふべきであり
下院の信任を有しない限りは、到底内閣は存続することが出來ないのである。上院は憲法上
に於いては、下院と同等の權力を有することになつてゐるが、實際の權力は到底下院とは比

較にならぬ。即ち、大體に於いて徹底デモクラシーに近いものであるから、腐敗汚濁もその邊から伴生したものと云へるであらう。兎も角、その亡狀は最初から徹底的で、選挙干渉、官權濫用、投票買収、暴力團横行といふやうなあらゆる罪惡が、大規模無遠慮に行はれたのである。加ふるに、伊太利といふ國は、經濟的に甚だ恵まれて居らぬ國で、その人口の著しい増加は、愈々この點の艱難度を深刻にし、政治と經濟と共に、行き詰りの難局裡に推移しつつあつたのである。

斯ういふ状態に於いて、伊太利は一九一四年の歐洲大戰を迎へたのである。伊太利が、この戰爭に参加すべきか否かについて大いに迷はざるを得なかつたのも、素より當然至極である。内には社會黨一派の猛烈な參戰反對運動があり、外には聯合側と協商側からの必死の參戰誘引運動があつた。伊太利は迷ひに迷つた揚句、漸く開戰後一年も経つてから聯合國側に味方して、この戰爭に参加することになつた。

この參戰問題に於いて、ムツソリーニは、最初中立論を高唱してゐたが、後には極端な參戰論者となつた。この點について、彼れは社會黨の參戰反對運動に猛烈に對抗し、遂に社會黨を追はれたことは既に前記する通りである。彼れが何故に中途から參戰主唱者になつたかは、これも前記する如く、その詳細な理由を知るに由ないが、要するに戰勝に依つて、アドリアチック海問題その他の國外問題を有利に解決すると共に國內的に一大革命を斷行しようといふ肚であつたことは、充分推測することが出来る。

二、健闘むなし

いよいよ參戰と決つた後の伊太利は、可成り目醒しい活躍を開始して伊太利側にはせると、歐洲大戰で聯合國側中最も多くの特性を拂ひ、最も多くの仕事を負擔したのは伊太利である。これは或る程度まで眞實で、若しもかの際、伊太利の參戰がもう一ヶ月遅れたなら

ば、獨軍は巴里の近くまで押し寄せ、英國軍隊がまだ地盤を得て居らぬのに乗じて、佛軍を滅茶々にしてしまつたかも知れぬ。伊太利が参戦したのは一九一五年の五月であつたが、十月二十六日から十一月三日に亘る總攻撃では埃洪軍を一擧に屠り悉してゐる。而も佛蘭西軍の戦つた西部戦線の戦場は、大きな野原であるが、伊太利軍の戦つた東部戦線は、その西北から東南に亘る三分の一は、千古溶けざる氷原であつて、その氷の中をダイナマイトでトンネルを穿ちつつ、塹壕を造つて戦つた。東西に亘る次の三分の一も四千尺から八千尺の山岳戦で、これに併行した西北から東南の三分の一だけが漸く平野戦である。而もその戦線の長さは、最も長い時に於いて佛蘭西戦線の三倍半、最も短い時で西部戦線の二倍半の長さを持つてゐた。その長さからいつて比較にならぬ西部戦線では、佛蘭西軍の全部、印度、加奈陀、濠洲、アフリカの植民地兵、合衆國の軍隊の全部を擧げて獨軍に對抗したのに對し、東部戦線ではただ伊太利軍のみが、埃洪軍を敵に廻して戦つたのである。伊太利軍は、この戦

争に於いて、死者を出すこと五十萬餘、廢兵を出すこと同じく五十萬餘、伊太利としては重きに過ぎる犠牲を拂つたのである。

大戦中、これ程の犠牲を拂つた伊太利が、大戦終局後如何に酬いられたかといふに、それは甚だ薄い酬いられた方であつた。尤も、伊太利人自身が憤慨する程に薄かつたかどうかは議論の餘地もあらうが、兎も角、伊太利を満足せしむるには甚だ懸隔のあるものであつた。ヴェルサイユ條約の決定に據ると、まづ伊太利はヴェネチアの北方に亘るチロルを割取した。チロル地方は二個の州より成り、南方はトレントを中心とするトレント寺領、北方はメランを中心とする附近一帯の地である。この中、南方地方は萬事伊太利風で伊太利に併合されるに何の不自然もないが、北方は頗る獨逸的で戦争中最も忠實にハプスブルグ家のために戦つたといはれる位の所、伊太利がこれを併合したとしてもあまり結構な所ではないのである。次に、伊太利はヴェニス、の東北方に當る對岸のイストリア、及びその底基地方、並びにアド

リア海北方の東岸に位するチエルソ、ルツシエン、ユニー等の諸島からダルマチア地方の數個の都市をも手に入れることが出来た。

これに依つて見ると、伊太利は決して、それ程、損な立場に置かれたといふやうには見えぬのであるが、伊太利の衷心の欲求は、アドリアチック問題を充分満足に行くやうに解決しようといふに在つたのだから、他の點で如何に酬いられる所が多くても到底これに満足することが出来ぬ。

アドリアチック制海權の獲得は、伊太利國民の歴史的熱求であつて、英佛が伊太利を戰爭に誘引したとき、必ずこのことを條件の中に加へてゐたに相違ないのである。然るに、平和會議に於いて米大統領ウイルソンに依つてこれが嚴酷に拒絶されたから、伊太利全權は一時席を蹴つて同會議を退出するといふやうなことになる、やがてはダヌンチオのフィウメ占領とまで發展するに至つたのである。

三、英雄起つ

伊太利は、斯くして戰時中、甚大な犠牲を負擔した上に、戰後に於いては、それよりも以上の國內的混亂から来る難局に當面せねばならなかつた。殊に、參戰に反對した社會主義者達は、それ見たことかといはぬばかりに參戰論者を嘲けり、この國內的混亂に乗じて、自己の野心を遂行せんと、陰に陽に策動して怠るところがなかつた。それがあらぬか、この不安裡に行はれた一九一九年十一月の總選舉には、社會黨は一舉にして百五十餘名の議員數を獲得し、憲政黨百八十九名に次ぐ尨然たる一大勢力を築き上げたのである。この大成功は、勿論、當時伊國內の社會的變調によるものであり、且つ漁夫の利を占めたことにもよるが、またロシア革命の成功に直接間接刺激されたことも見通すべからざることであらう。この大成功に有頂天になつた社會黨は、既に天下の政權を握つたかの如く自惚て、あらゆる非國民的

の狂態を悉した。彼等は公然と革命後の社會について論議し、甚だしきは、議會に於いて國王が勅語を携へて臨場するに當り一齊に退場を執行するといふが如き振舞をなすに至つた。議會以外に於いても、地方長官は殆んどすべての権限を失墜し、反社會主義者が財産権を行使するが如きは殆んど不可能な状態となつた。地方の労働組合の首領達は、正に中世紀に於ける封建的暴君の役割を勤めた。斯かる状態は、最初はボロニア、フェララ等の一、二州に於いて示されたに過ぎなかつたが、やがて急速度を以て伊太利全土に蔓延し次第に革命的熱を加へて行つた。この間に選挙後ニツチ内閣が、反社會黨分子を糾合して成立したが、威令全く行はれず、一九二〇年三月に至つて、可成り大規模の内閣改造を行つたが、もとよりこれも長續きせず、六月に至つて遂に瓦解した。その後を承け、國民派と社會黨とを打つて一丸として内閣を組織したのは、策士を以て聞えた例のチオリツチであつた。然し、當時既に國內の状态は如何なる政府の力を以てしても如何ともなすことの出来ぬ程度に、非國民

的革命氣運に煽られてゐた。工場は職工に依つて占領され、土地は農民に依つて占取され、赤衛軍は組織され、占領された工場に川園に武器彈藥が公然貯藏された。これに對しては勿論、資本家及び地主等も結束してローヤル・ガードなるものを組織して對抗し、九、十月の交に於いては、既に到る所で小市街戦が開始されるに至つた。

この状態を見て、決然黒襪衣隊を率ゐて起つたのが我がベニトー・ムツソリーニである。

四、二萬の兵兒

フアスシオ運動の濫觴のいふが如きものは暫く尋ねないで置いて、フアスシオが見も角も、フアスシオといふ名前前で、世間に公然産聲を揚げたのは、ダモンチオのワイウメ占領に先だつ半歳一九一九年三月二十三日のことである。走せ參じた兵兒の數は一萬七千、いづれもムツソリーニと死生を共にしようといふ熱血兒である。その構成分子は何であるかといふ

に、先づ第一は歐洲大戰から歸還した所の除隊兵卒である。彼等は歐洲大戰に於いて非風慘雨の苦闘をして歸國して見ると、大戰に於ける自國の分け前は一向に有り難くないものであるのみならず、國內には戦争反對の社會黨一派が幅を利かし、自分等は働くに職もないといふ有様に遭逢したので、心中に鬱勃せる不平を藏してゐた。これらの分子が悉くムツソリーニの驟起に應じてその傘下に走せ参じたのは、極めて自然なことである。次には、社會主義者中の分離組が参加した。勢力争ひから分離したのもあらうし、その他の意見争ひから分離したのもあらう。それらが皆フアスシオに参加することになつた。次には、社會主義者に依つて小ブルジョア階級と呼ばれてゐるもの、ことに知識階級、學生等の多くの部分に参加した。その他貴族、地主、資本家、代議士、地方有志、労働者、農民等あらゆる階級の反社會主義分子が悉くムツソリーニの下に集まつた。

ムツソリーニは、社會主義反對を標榜しながらも、その色彩は極めて革命的急進主義を以て塗抹し、その掲げた綱領の如きも左記の如き進歩的なものであつた。

(一) 政治

- 1、比例代表選舉の施行
- 2、婦人の選舉權、被選舉權を認めること
- 3、選舉權者、被選舉權者の年齢低下
- 4、上院廢止
- 5、政治議會以外に經濟議會設置
- 6、國民議會を召集し、國家の構成を定めしむ。

(二) 社會

- 1、一日八時間労働制を法律に依り確保すること
- 2、工業労働者及び農業労働者のために賃銀の最低限度を定むること

- 3、癡疾及び養老保険
- 4、産業の専門的指導に労働者を参加せしめ、生産の管理を行はしむ。
- 5、公企業の専門的指導を選挙委員会に委ねること

(三) 財政

- 1、資本に對し一部公用徴收的性質を有する特別進歩的な課税をなすこと
- 2、戦時給付の修正
- 3、八十五パーセント以内の戦時利得徴集
- 4、僧侶の財産押收

(四) 軍事

- 1、常備軍の廢止
- 2、國防のための短期訓練に依る軍隊の組織

3、軍器及び軍需品工場の國有

以上を見ても分る通り、ムツソリーニは始めは殆んど社會主義者の主張をその儘に綱領の上に反映させてゐたが、これは次第に改められて行つた。世界の社會主義者が、この點を捉へて彼れの豹變を詰るのも、事實としては滿更ら嘘ではないのである。

斯くて、フアスシオの成立と共にムツソリーニは得意の威嚇政策を用ゐて、頻りに社會主義者に對して積極的攻勢を示し、先に自己の主筆だつた機關紙アヴァンチ社を襲つてこれを破壊し、壁間のマルクス肖像を焼棄したり、フアスシオの機關紙ボボロ・デ・イタリアの一編輯者が共産黨員のために襲はるるや、直ちに共産黨機關紙イル・ラポラトレ社を襲撃し、これを焼燬する等の舉に出で、盛んに直接行動の黒色恐怖振りを發揮した。

それと共に、ダヌンチオのフイウメ占領に對し陰にこれを援助して國內の少壯分子の共鳴を贏ち得ることに成功すると共に、また反對派に對する威嚇の具とすることを忘れな

つた。

五、黒色恐怖！

フアスシオが呱呱の聲を揚げた翌年、一九二〇年に入つて、愈々伊太利全土に革命的労働運動が灼熱的に蔓延し、ポロニアに於いては、エルコレ・パツコ及びエンリコ・マラテスタの下に團結して赤衛軍を組織し、これをロマニアその他諸州に分遣し、その運動は愈々進展し、基督教の本場たるピサに於いてさへも、一九二〇年三月には急進社会主義者達の會合が催され、積極的進出の宣言が高唱され、同七月にはポロニアで、急進革命主義の伊太利労働團體の發會式が行はれ、次いでミラノ市のロメオ會社金屬労働者達は工場占領政行の宣言をなし、同九月産業地として聞えたロンバルデイに於いては各工場に赤旗が掲げられ、占領された工場は労働者に依つて監視され、赤色裁判所をさへ構成して、企業家を縦に引致し、世

界革命の名に於いてこれに判決を下すといふやうなことで敢てした。これに對して無力なるチオリツチ内閣は何等の取締りに出づることが出来なかつたので益々この傾向は蔓延し、エミリアでは、強制徴集を目的とする農業罷業が勃發し、同地方は殆んど無政府状態に陥つてしまつた。

この激しい氣勢に呑まれてしまつたチオリツチ政府は、一意ただ労働者の鼻息を窺ふに汲汲として、労働組合に依つて工業資本家を統御せしむる約束を與へ、戦時利得を沒收し相續税を増加し、不勞所得に課税し工場の共同管理を奨励する等、極端に弱腰な態度を示したから、労働者の鼻息は愈々荒くなる一方であつた。

この有様に憤りを發したムツソリーニは、放任して置けば事態は愈々極端化する一方だと考へたから、一九二〇年十一月、自黨員に向ひ共產主義者社会主義者に對しては徹底的に暴力行爲に出づべきことを命令し、工業労働者の勢力の比較的弱いポロニア、フェララ、フ

ローレンス諸市に於いて就中強烈な武装的攻勢を示し、占領せられた工場こうばうの奪還だつくわんに力を注いだ。それと同時に、政府せいふの無爲無能弱腰むゐむのうじやくしを痛罵つうばし、チオリツチの如ごときは宜よろしく革命軍事裁判かくめいぐんじさいさいに附つして、これを處刑しよけいすべきだと極論ごくろんした。

ムツソリーニのこの勇敢ゆうかんなる進出しんしゅつは、當時たうじ何かしら英雄えいゆう的なるものを求めてゐた伊國民いこくみんの間に、非常ひびょうな憧憬どうけいを懐いだかしめたと共に、また共產主義者こんさんしゆぎしやは工場こうばうを占領せんりやうしても、實際じつまいの産業管さんぎやうくわん理りの手腕しゅわんに於おいて著いちじしく無能むのう振おりを發揮はつぱいし一般いぱんから失望しつぱうを以もつて迎むかへられてゐたので、その方面ほうめんからも喝采かつさいを博はくすることになつた。當時たうじの伊太利いたりやは、文字通りもんじどおりに戰國亂麻せんごくらんまの如ごとき状態じたいで社會黨しやうたうの内部ないぶにも、仲間割なかまわりれが行なはれ、フアスシオとの衝突しゆつとつは常に何處どこかしらで行なはれ、兩りやう黨員かうぎんはまた單獨たんどくで暴行ぼうかうを働たづぬ。その間にチオリツチ以下いかた大小だいじやうの策士さくし共ともが二十日にじゅうにち鼠ねずみの如ごとく策動さくどうする。正ただに息吐いきつく間まもない眼めまぐるしさであつた。この間に在あつて、フアスシオは急激きゅうげきに黨員かうぎんを増まし、地主ちぬしや資本家しほんかとの關係かんけいは益々ますます緊密きんみつとなり、どうやら社會黨しやうたう一派いぱを正面しやうめんの敵てきに廻まわしても、ひけはとらないまでに漕こぎつけたのである。

ても、ひけはとらないまでに漕こぎつけたのである。

明あくれば一九二一年にじゅうにねん、一月十五日いちがつにじゅうごにちといふに、レッグホーンで社會黨大會しやうたうたいかいが催もよほされた。そしてこの大會たいかいに於おいて、國民こくみんの反共產主義的傾向はんこんさんしゆぎてきけいかうに乗のじて、さきにムツソリーニが主筆しゅひつをしてゐたアヴァンチ紙しの主筆しゅひつセラチを首領しゆりやうとする穩健派えんけんぱが、すっかり過激くわげきな分子ぶんしを抑おさえつけてしまつた。セラチ等の主張しゆじやうは、穩健派えんけんぱに免まれない理論的矛盾りろんてきむじゆんを含ふくんでゐたが、さういふ所説しよせつが大會たいかいの勢力せいりきを占めるに至いたつた所に、既に社會黨分裂衰頽しやうたうぶんれつすいたいの豫兆よてうが示しされた譯わけである。

一月いちがつから二月にがつ、三月さんがつとこの三月さんがつの間まは、フアスシオの連中れんちゆうが、特に極端ごくたんな恐怖政策くふふせいさくを布しいた時ときといはれてゐる。僅ただか三月さんがつの間に、彼等かれらに依よつて五千ごせん人の死傷者ししやうしやが出でされた。而も當時たうじの首相しゆしやうチオリツチは、前に社會黨しやうたうの暴行ぼうかうを默認もくにんしてゐたと同様どうやう、このフアスシオの暴行ぼうかうをも默認もくにんしてゐたのみならず、或る場合あるばあひには寧ろこれを奨めてゐたやうな形跡けいせきさへあつた。彼れは名なうての策士さくしであるから、時勢じせいが漸しだく社會黨しやうたうを棄すててフアスシオに歸かしつつかあることを看かん

取し、フア黨の歡心を得てさへ置けば、改選後の政權は當分完全に自分のものであると打算したのであらう。社會黨でも充分彼れのこの肚を見抜いて、極力議會解散を防止する策を講じたが、落目になつては萬事が意に任せなくなると見え、老獪のデオリツチに見事な背負ひ投げを喰はされ、四月七日遂に解散の宣告を下された。

六、議會的進出

總選舉は五月十五日を以て行はれた。で、その結果は案外にも社會黨の勢力を盛り返させることになつた。尤も社會黨といつても、極左共產派は篩ひ落され、セラチ、トレヴス等の穩健分子が中心である。フアスシオもこの戦ひには随分力を入れたが、やつと四十名の議員を議會に送ることが出来たのみであつた。尤も、やつとはいつても、初陣としては、隨分大成功の方といはねばなるまい。のみならず、憲政黨の二百七十五名は、多少の程度別はあ

つても、フアスシオ支持派と見られるのだから、一舉、議席の過半数を贏ち得たともいはれる。兎も角、大勝利と稱して間違ひない成績であつた。この結果により、デオリツチは社會黨に卻けられて、政權は穩健左派及び中央派を糾合して起つたボノミに移つた。これが又フアスシオに幸ひし、野黨はフア黨を中心にして、社會黨に對する一個の反對黨として團結し、結局それらはみなフアスシオ黨となる形勢になつた。そこで社會黨とフア黨とは、兩派對立の狀態を益々尖鋭化し、従前よりも以上に激しい抗爭を演ずることになつた。そこで首相ボノミ及び下院議長デ・ニコラが苦心慘愴して、八月初旬兩黨は兎も角仲直りをする事になつた。八月三日成立した妥協條件の内容は左の如きものである。

- (1) 兩派の鬭争は徒らに國內の平和を阻害し、國利民福に有害なるを以てこれを中止すること

- (2) 兩派はおの／＼その本部、事務所等より奪取せる物品を返還すること

(3) 曩に暴力を加へらるることを恐れて辭表を提出せる市町村吏員及び議員を復職すべきこと

(4) 兩派は各自の徽章を相互に尊重し合ふこと

(5) 社會黨はアルデイチ・デル・ポポロ（註、共產主義者がフアスシオと對抗するために新たに組織した團體）と何等の關係なきを聲明すること

斯ういふ條件で妥協が一時的に成立はしたものの、もとく社會黨とフア黨は水と油の關係に在るのであるから、到底いつまでもうまく行く筈がない。その十月には、もう以前にも優るいがみ合ひを開始することになつた。

ムツソリーニは、斯くして社會黨との激烈なる鬭争を再開すると共に自黨内の改革肅正に意を注ぐことを怠らなかつた。これまでフアスシオは何等確乎たる黨制を有せず、一個の漠然たる大衆運動たるに過ぎぬ觀があつたが、ムツソリーニは是非ともこれを確乎たる中央集

權的組織の團體に改造するの急務なるを考へ、新加入分子を自己の嚴重なる監督の下に置き、その鬭争團體をフアスシオの指導訓練の下に立たしめようとし、一九二二年一月に至つて、漸く所期の目的を實現するに至つた。それと共に、工業都市に於けるフアスシオ運動は益々これを組織的なものとなし、一糸亂れざる統制の下に威嚇行動を敢行するの必要を感じ、全國的産業團體を組織するの緊要なることを痛感して、遂にこれが組織をも實現したが、この團體は、社會主義労働組合團體に對抗してマルクスの階級鬭争を排し、これに代ふるに資本と労働との平和的協調主義を以てし、企業者、官吏及び労働者を抱合一致せしめて、生産の増進、消費者及び労働者の幸福利益を計るといふ、ムツソリーニ一流の勞資協調主義に立脚したものである。

この全國的産業團體の組織を見ると共に、フアスシオ國民黨指導の下に、漸次赤色労働組合に向つて積極的攻撃の態度に出で、あらゆる表裏の手段を盡して、これを迫撃したので、

赤色労働組合員達も、遂にこれに抗しかねて漸次降伏乃至提携を申し込むもの種を接ぐに至つた。

斯くして全國産業團體の勢力は次第に優勢となつたので、翌一九二二年には、ムツソリーニは社會主義的運動の全戦線に向つて、一齊進撃を試みることにしたが、政府當路者は全く無力で、フアスシオの猛烈なる運動に對しては到底これを監視することが出来ず、随つて軍除、裁判、警察等も全然これに干渉することを控えるのみか、官憲の多くは寧ろ思想的にフアスシオに牽かれるものが多く、運動は甚だ有利急速に發展して行つた。一方、赤色労働組合側では次第にその地盤を蠶食されて氣勢揚らず、占領工場の明渡しを申出づるものも簇出し、また社會黨の穩和派は全くこれと太刀打ちが出来ず、いづれも、「今や伊太利の無産階級運動は、資本家階級との一時的妥協時代に當面せざるを得ざるに至つた」と悲鳴を揚ぐる有様であつた。

七、七擒八縱の辣手

社會黨とフア黨との妥協決裂の影響を受けて、一九二二年二月ポノミ内閣は遂に倒壊の已むなきに至つたが、これを倒すにはムツソリーニ一流の辛辣な策が運らされた。即ち彼れはポノミが、ゼノア會議の首唱者となつて露國代表を招致するが如きは許すべからざることであると反對の叫びを擧げたのである。そして露國代表の赤化宣傳を行ふのを監視するためにフアスシオの代議士バツタイが黨員五萬を引き具しゼノアに向つて乗り込むといふ物凄い宣傳をなさしめた。これでいい加減度膽を抜かれた上に、その他經濟上の失策やら法王廳の問題やらで人氣を落したため、遂にポノミ内閣は果敢ない最後を遂げることになつた。

ポノミが倒れて後、凡そ一ヶ月ばかりの間といふものは、伊太利には政府がなかつた。候補者として第一に登場した人物はデ・ニコラであつた。これが中央どころを糾合しようとし

て成らず、間もなく退場、次は元老オルランドであるが、彼れは保守派であるといふ理由で眞つ向から社會黨の反對にあつて物にならず、次はまたしても例のチオリツチである。勿論社會黨と人民黨とは猛烈に反對したから、これも流産。今度は再び逆戻りしてオルランドに行き、オルランドはデ・ニコラを道伴れにしようとしたが、人民黨の反對でまたも物にならず、そこで今度は社會黨と人民黨とが一緒になつて、デ・ニコラを擔ぐことになつた。然るに今度はニコラの方で、オルランドと一緒にならばといふ話になり、オルランドはチオリツチ派のフアクタが参加するならといつた。けれ共、もとくフアクタはチオリツチの兒飼ひだから、チオリツチはこれを離さうともしない。それで結局、この案も駄目といふことになつた。その中に國民は漸く政争に疲れ、どんなガン首でも無政府よりはましだらうと考へるやうになつた。この潮時を見て腰を持ちあげたのがチオリツチで、彼れはフアスシオと結んで、盛んにフアクタ内閣の宣傳をやつた。そして結局、社會黨以外の各派を糾合して、どう

やら内閣を作り上げたのである。この頃までには、チオリツチが議會を解散して作り上げた立憲黨は、既にみな幾つかの小黨に分裂してしまつてゐたから、その糾合に大した努力を要しなかつたが、それでも、兎に角纏め上げて物にしたのは流石に策士チオリツチである。けれども、糊と鉄で出来上つたものだけにその影の薄さは是非もない。

當時の伊太利の財政はといふと、極端に疲弊し切つてゐた。そこで、フアクタ内閣はこの急場の難を救ふために、盛んに公債を發行し財産税を重課した。即ち、その政策に多少社會主義的色彩を加味した譯である。これを見て、手を拍つて喜んだのは社會黨であり、多少與黨的色彩を帯びたフア黨は背負投げを喰はされた氣味であるから、大いに憤慨を發した。のみならず、チオリツチ一派は、さきにあまり社會黨を苦しめたために、手痛い攻撃を蒙つた記憶から、なるべく今度は社會黨の意を迎へるやうに努力したので、フアスシオは幾分自棄氣味となり猛然として反對運動を起した。そして社會黨や人民黨を目的にして、縦横

無盡に暴れ廻る、殺人、放火、掠奪、破壊等、あらゆる手段を以て騒ぎたて、殺人數三千に上つたといふ。わけてもクレモナに於ける騒擾は極めて大規模であつたが、ファクタ内閣はこの騒擾に對して鎮壓することが出来なかつたといふ理由のため、遂に組閣後四月の薄命で倒れた。

伊太利は斯くして再び無政府状態となり、その間に社會黨とファ黨との抗争はますます白熱状態に進み、七月六日にはラヴェンナに於いて大衝突があり、二十七八兩日には社會黨の新聞社、俱樂部、事務所、組合建築物等悉く破壊された。内閣を組織するには、社會黨がファ黨かいつれかに據らなければ絶対に不可能なのであるが、今や兩黨が斯くの如く火花を散して戦つてゐるやうでは何人も内閣を組織することが出来ぬ。若し一方を立て、一方を抑へるといふ如き態度に出づれば、忽ち内亂状態を招來することは、火を睹るよりも明かである。そこで、セラチ、オルランド、ボノミ等、悉く手を下さずして辭退に及んだ。で、再

び策士チオリツチの策動となつたが、この場合チオリツチ内閣が成立すれば、社會黨にとつては大打撃であるから、實に死物狂ひの反對を開始した。そこで、チオリツチがファ黨及び極右黨を中心として保守的内閣を組織せんとするに對して、大同盟罷業を以てこれに當つた。罷業は交通方面から始まり漸次に擴大せんとしたが、ファスシオはこれに對して徹底的の彈壓を加へ、軍隊と協力して、交通上の運轉も何等支障なく遣つてのけたため、この總罷業は何等の効果も擧げることが出来なかつた。しかし、チオリツチは、これほど社會黨の反感が濃厚では所詮組閣しても六づかしいと考へたので、屈辱を忍んで引き下ることにした。で、お鉢は再びデ・ニコラに廻つたが、一議に及ばず彼れは辭退した。

廻りに廻つたお鉢は、遂にまたもファクタの所へ來た。彼れは閣員の中十名を留任し六名を新任して、以て曲りなりにも改造内閣を成立させた。六月十九日に辭職し、ちやうど四十餘日を経過して再組閣した譯である。この内閣に對し、社會黨領袖連は厚顔にも内閣割込運

動を行ひ、フアクタから肘鐵砲を喰はされたため、再び總同盟罷業を行つてこれに反對を示さうとしたが、もともと本氣にやる積りはなく、所に依つては罷業が終つてから罷業の命令が届いたなどといふ醜態を曝露したりした。

だが、この改造内閣もどの點から考へても到底永續する可能のあるものではなかつた。いよく激烈化して来る社會黨とフア黨との抗争に對しても、何等の調停をなすことが出来ず、随つてその取締り振りに對して兩黨から不満を以て迎へられる苦境に陥つた。この間に在つて、ムツソリーニの胸中には、既にクーデターに依る政權獲得の秘策が描かれてゐたのである。

八、羅馬へー！羅馬へー！

フアスシオは既に從來五度も、羅馬進撃の舉を實現する機を有つた。その第一回は一九一

九年夏ダヌンチオのフイウメ斷念により、一般民心の昂奮緊張した際であつた。けれども、その當時にはまだフアスシオの勢力が薄弱で、この大事業を敢行する力が足りなかつたので、ムツソリーニはこれを見合せてしまつた。その第二回は、一九二〇年十一月、政府が共產主義者の暴行恐迫行爲に對して、その取締を斷念するに決した際である。フアスシオはこれを口實として、共產派及び政府に對し大々的に挑戦しようとしたが、この時もまた黨の力の不足が恐れられたので思ひ止まることを餘儀なくされた。第三回は一九二一年夏、その暴力行使の手段たる處罰的出動により各地に騷擾を惹き起し人目を聳動せしめた際であつた。第四回は、一九二一年十一月、羅馬に於いてフアスシオ大會が開催され、市民が異常の感激を以てムツソリーニを迎へた時のことであるが、いづれも事を舉ぐるに多少の碍けがあつたのと、黨力の未だ十分でなかつたのに對する懸念から、實現の機會を失した。第五回は一九二二年五月、ムツソリーニが社會黨のメーデー運動を妨害抑壓し且つボロニアにフアスシオ

軍隊を集中した際である。だが、この時もまだフラスシオ軍を古代羅馬の方式に則つて配置する方法が實現されなかつたため、その軍隊組織改善の必要上から、次の機会を待つことになつた。

斯く、從來五回までも大事をとつて羅馬進出を延引させ、鋭意フラスシオの改善と訓練とに没頭してゐたムツソリーニも、今や力充ち、機熟し、自ら政權を掌握して國運を打開するの可能充分なるを覺り、一九二二年九月二十日ウディネに於いて革命的宣言を發したが、その中に曰く

我等は今や羅馬進撃の初一念を實現せんとす。我等の主張は簡單なり。我等は伊太利を統治せんと欲す

と。この傍若無人な宣言に對して國人が驚き呆れてゐる中に、ムツソリーニは直ちにフラスシオの總動員を命じ、光榮ある快舉の火蓋を切つた。先づフラスシオ軍はアルベルト・デ・ステ

フアニ及びチウンタ指揮の下に上部伊太利より南下せずして、北方トレント、ポーツエン、メランへと進出し、ブレンナーに至るまでの南チロルの要地を占領した。そして十月一日、ポーツエンを占領した。ステフアニは宣言して曰く

「伊太利政府の對獨護歩は、遂にフラスシオをしてチロルを支配せしむるに至つた。伊國政府は今日より、フラスシオ委員の下に立ち獨逸人市長ペラトリーネリ及び獨逸人市會議員はこれを廢す。大なる獨逸學校は、今より伊國皇后陛下の御名を冠すべく、教育は伊國語を以てこれをなすべきものなり。云々」

更らに十月四日には、チウンタ及びステフアニの率ゐる軍隊は、伊太利官廳の存在するトレントに進出し、伊太利王の委員クレダロを強制してその地位を去らしめ、フラスシオ委員をしてこれに代らしめた。この舉を手始めとして、行政官廳又は警察官廳及び王軍をして何等反抗の舉に出づることなしに、これを自己の支配下に置き、南チロルを完全に占領し、全

伊國民をして快哉を叫ばしめた。これを以てムツソリーニは羅馬進撃の第一歩既に成れりと天下に呼號したのである。

十月一日、ムツソリーニは羅馬進撃に關する謀議を更らに進め、四人より成る秘密委員會を組織し、デ・ボノ、イタロ、バルボ・ベツチの三將軍及びフア黨幹事長ピアンチを以てこれに任命した。この四巨頭委員會は、その本部をベルギアに置き日々數千の武装フアスシオ隊を南部に輸送し、羅馬を越えてナポリに至るまで、道途フアスシオならざるなしといふ盛況を呈した。この間、ミラノ市のフェデルツオニー等の率ゐる非フアスシオ團體の來たり投するあつて、その鼻息はいよ／＼荒くなつたが、これと同時に伊太利政府に對して交渉を開始し、次の要求を持ち出した。

「議會の解散、選舉法改正及び新選舉即行、政府が社會主義的及び非國家主義的に傾くのを全然避けること、ダルマチアに於ける斷乎たる政策實行、五人の閣員（外務、陸軍、海

軍、労働、公共労働）の更迭並びに航空委員の設置。」

若しこれを承認すれば、ムツソリーニは自ら内閣に加はらず、閣外に在つてフアスシオの指揮のみに當らうとする考へであることを仄めかした。しかし、いくら腰拔政府でもこれは大問題だといふので、結局拒絶するに決したため、遂に交渉不調に終つた。

この間に在つて、ナポリにはフアスシオ軍が集中し、無慮四萬と算せられ、羅馬の北方にはその本隊が駐屯した。その數實に二十萬、今や大羅馬市はフアスシオの大軍を以て完全に包圍されるの狀を呈した。十月二十四日には、ナポリに於いて一大示威大會を開催し、ムツソリーニ自ら閱兵式を行ひ、次の如き意味の示威演説をなした。

「フアスシオ黨の目的は、政府に列し、銳意財政策を收め、以てダルマチア地方に對し斷乎たる政策を行はんとするに在る。我黨は王室維持に賛成であつた。その運動の主眼は、自由の施設を擁護し、軍隊を鼓舞して伊太利の國威を發揚せんとするに在る。……」

この形勢を見て驚愕狼狽したファクタは、自らムツソリーニと會見して協議する所あつたが、曙光を見出すことが出来ず、遂に皇帝の許可を得てファスシオ攻撃の態度を決した。茲に於いて、ムツソリーニは遂に斷乎たる決意に及び、二十八日夜、四頭委員をして羅馬進撃の命令を下さしめ、同時にファスシオは上部及び中部伊太利に於ける實權を掌握した。警察及び軍隊の一部は同黨と提携し、その一部は中立を標榜した。政府は戒嚴令を下し、伊太利全國は包圍地境に在るに均しき旨を宣言したが、多數の伊太利軍隊は寧ろファスシオ軍に好意を寄せ、公然と同黨の徽章を付けて濶歩するといふ奇現象を呈し、皇帝また政府の戒嚴令を認めざる旨を仰せ出されたので、二十八日夜ファクタ首相は遂に内閣を投げ出さざるを得ざるに至つた。茲に於いて、前首相サランドラは、ファスシオ四頭委員に對し、國王の下に全權委員を派すべきことを説いたので、デ・ベツチはベルギアより直ちに羅馬に赴き、國王に拜謁したが、國王はこれに對し、戒嚴令を下したことが自己の本意に出でたのでない次

第を述べ、次いでムツソリーニがサランドラ乃至チオリツチと共に聯立内閣を組織すべきを説かれた。

然しながら、ムツソリーニは飽くまで聯立内閣を拒み、單獨ファスシオ内閣の樹立を主張し、チオリツチ、サランドラその他一切の非ファスシオ内閣に反對の旨を力説した。今やファ黨の武力は絶對的なものであるから、ムツソリーニが斯く主張する以上、到底これを卻けることは出来ぬ。斯くして二十九日、遂に單獨内閣の大命がムツソリーニに下つた。

九、光榮の日

そこで、ムツソリーニは即時組閣の準備に取りかかつたが、まづミラノに於いて黨の領袖連と打合せをなし、羅馬に向ふ途中ガルダに下車して、ダモンチオと諒解を遂げ、三十日午前十時五十分といふに、早朝から彼れを迎へようと停車場に雲集してゐた大衆の萬歲聲裡に

無事羅馬に着した。それより直ちに皇帝に謁見し、まづ劈頭「私は黒襦袢の儘で陛下の咫尺に出ることをお詫びせねばならぬ」旨を申し上げ、次いで自分は伊太利を救済するため凡ゆる障碍と戦つて来たが、その運動に對しては、全部みづから責任を負ふものであると語り「この大目的のためには身命を抛つて勅命の儘に働く」と申し上げた。ムツソリーニが斯く陛下に對する忠誠を誓つて、クリーナル宮殿を退出するや、無数の群集は狂喜してこれを歓迎し、ムツソリーニまたこれに答へて、「諸君、諸君は今や數時間の後に政黨の内閣でない眞個國民の内閣を持たうとしてゐる。伊太利萬歳！皇帝萬歳！フアスシオ萬歳！」と大聲に絶叫し、群集は熱狂してこの叫びに唱和し、止まるところを知らなかつた。その天地を震撼する聲は、宮殿内の皇帝の耳にも達し、遂に皇帝また露臺の上に現はれて、群集に會釋されること兩度に及んだ。

事態茲に至つては、天下はもう完全にムツソリーニとその一黨のものである。社會黨、共

産黨は、闇夜でもなければ、大ピラに外を歩けなくなり、這々の態で四分五裂するより外はなくなつた。共產黨本部は、共產黨の行動一切を中止し、黨員全部は黨規及び義務の遵守から解放された旨の通電を下した。フア黨は共產黨員を逮捕したが、大概はヒマシ油を呑ませる位の茶氣満々たる制裁を下して釋放した。フア黨の得意は絶頂に達し、三十日、三十一日には、羅馬全市を擧げて祭禮の如き大賑を呈した。幾萬人の黒襦袢と、幾千人の青襦袢衣團（フアスシオの友黨國民黨員）は、隊伍を整へて市中を練り歩き、街路は花束で裝飾され行列隊の頭上には、歡呼の聲と花の雨とが降り注いだ。行列は無名戰士の墓碑に禮拜してから分列式を行ひ、後十萬の群集の待ち構へた王宮前の廣場に向ひ、皇帝は宮殿外に出御して行列に御會釋を賜ひ、茲でも亦割れんばかりの歡呼の聲が揚つた。この時、ムツソリーニ内閣成るの號外が、羅馬市中を矢のやうに飛んだ。その顔觸れは左の如きものであつた。

首相、内相、外相

ベニトー・ムツソリーニ

陸相
海相
植民相
法相
藏相
國庫相
文相
工務交通相
農務相
労働相
郵便電信相

アルマンド・ディアズ
タオン・デ・レブアル
ルキチ・フエデルゾニ
アルド・オヴィルヨ
アルベルト・デ・ステファニ
ヴィンツエンゾ・タレゴラ
チエンチレ
カロ・カルナツサ
ロシ
ステファ・カヴァツオニ
チエサロン

新領土相

ジオヴァン・ジュリアチ

羅馬市中はこの報に接して再び歡呼に充され、越えて十一月一日、戰勝閱兵式が終ると共に、フラスシオ軍隊は解散された。ムツソリーニは、第一になすべきことは先づ國內平和の恢復に在りとし、この軍隊解散に依つてこれが範を示したのである。

ムツソリーニは就任と共に、海外各國に對して、極めて謙抑なる挨拶をなしたために、實際關係上の危惧も一掃され、却つて急激に好ましい結果が反映された。例へば、伊太利爲替相場場の改善の如き、このことを有力に物語るものである。この點ムツソリーニの才能が單なる武力的卓越に止まるものでないことを早くも窺知せしめた。彼れは、爾來、着々としてその所信を勇敢に斷行し、執政以來僅かに六年の今日、伊太利の面目をして一變せしめたほど著るしき政治上の實績を挙げたのである。

ムツソリーニズムと國家社會主義

一、彼れの稚氣と街氣

ムツソリーニといへば反動主義、反動主義といへばムツソリーニズムと響くほど、ムツソリーニの名は反動主義と結んで解けぬものとされてゐる。ところで本文の筆者も、これはほんの拳闘一握りほどの人々からではあるが、さながら日本に於ける反動主義のチアンピオンでもあるかの如き、大それた評價を恵まれた。それで自然、ムツソリーニの思想と筆者の思想との間に、一脈相通するものがあるかの如く考へる向きも廣い世間に絶無といふわけがなく、現に和製ムツソリーニなどいふ散文的新術語を、結局本文の筆者にでも當てつけるらしく一かど皮肉のつもりで投げ飛ばした一二の和製ブハリン先生もあつた。それやこれや

で、先にムツソリーニの思想と風格を論じたから、今度は河岸をかへて彼れの思想と筆者の持論との異同を比較對照して見ることも、時にとつての一興であらうと思ひ、それを種に突然何か書いて見る氣になつた。

嘗て時事新報から、現代世界の人物中誰れが一番好きかといふ往復ハガキの質問を受けたとき、筆者はベニトー・ムツソリーニの名を擧げたことを覚えてゐる。その理由は、かばかり浮世の荒波で叩き上げられた情熱と、強情と、鐵腕の人傑たる彼れが、とき／＼稚氣と街氣を彷彿させる地がねを遠慮なく露出してゆくところが、ひどく氣に入つたといふのであつた。さういつたからとて、何も筆者がムツソリーニの人物を禮讃してゐることにはならぬわけだが、こんな片言雙語を楯にとつて、さながら筆者が、死んだレニンの尻の穴を甜める共產主義者の如き態度で、ムツソリーニを崇拜してでもゐるかのやうに早合點した粗忽者があつたには驚いた。

ムツソリーニの人物の崇拜は兎も角、彼れの思想と筆者の持論との間には、實をいふと共通したところが極めて少なく、反對した點が頗る多い。筆者は久しく國家社會主義の看板を掲げて来たから、これから先は國家社會主義の一語を以て筆者の思想を代表させることにしよう。尤も、この國家社會主義といふ言葉の中味には色々あつて、下はビスマルク流の警察國家的社會政策から上はラツサレ、ロドベルトス等の理想主義的國家觀、甚だしきはマルキシズムの一面をもこれに包括させて考へる人々がある。が、筆者の國家社會主義はこれらの何れとも共通しない特殊性を含むと信じ、かたがたつまらぬことで他人の持場に迷惑をかけたくもないから、この場合國家社會主義といふときには、いつも筆者一流の國家社會主義だけを指すものとして貰はないと困る。

二、彼れのブラグマチズム

ところで、この國家社會主義だが、これとムツソリーニの思想との間に如何なる内容的交渉があるか。實をいふとムツソリーニの思想には思想といふほどの體系も何もない。日本の安達謙藏は無策の策を喋々し、西洋には不死の死といふ言葉があるが、強いてムツソリーニの思想を求めらば、それは恐らく無思想の思想とでもいふべきものであらう。

彼れ自身の言葉をかりていへば、嘗ても言つた「思想そのものを無視するところの思想」である。彼れは極端な行動讚美論者であつて、「事實は書物よりも、經驗は教養よりも、ヨリ大なる價值を有する」と信じてゐた。「決算を終つて考へれば、最初の論理的豫測に反することが極めて多く、數は理性の反對を示す」といふのが彼れの持論である。始めに行動あり、行動は眞理を創造する。一切の合理主義は虚偽である。随つて彼れは、歴史の必然性といふものを信じない。「歴史が必然的過程を踏むとは、斷じて考へられぬ」とは、彼れが平素口癖のやうに強調してゐるところである。

この『思想そのものを無視するところの思想』はプラグマチズムから來てゐる。彼れ自身もプラグマチズムの熱心な信奉者であることを認め、予の信念はプラグマチズムに基礎づけられてゐると言明したことがある。

元來、プラグマチズムといふものは、哲學上、倫理學上の實踐主義であつて、眞理と虚偽との區別を、人生の目的に適合するか否かに依つて判定しようとするものである。宗教も、道徳も、學問も、本來は人類生活のために存すべきものであるに拘らず、動もすればそれが生活そのものを忘れて、論辯や儀禮の末技に走る傾きがある。思想の價値は、その論理的體系の精粗に懸るものでなく、寧ろ事實に於いてそれが人間の行動を喚び起すところの原動力たるか否かに依存するものである。

宗教に高等批評といふものがある。宗教の殿堂を科學の命題に依つて基礎づけようとするのであるが、如何に科學的に纖巧細微な基礎を具備せしめられた宗教であつても、それが人

類の宗教的行動を喚び起す力とならぬ限りは、眞實の宗教といふことは出來ぬ。鰭の頭の信心でも、信する人の心に熱意を興へ行動を喚び起す限りは、その方が遙に眞實の宗教だといひ得る。

だが、問題は鰭の頭の信心ができぬ人はどうするかといふことだ。進んだ頭の人、進んだ理屈なら信仰できるが、何もかも矢鱈に信心するわけには行かぬ。だから、さういふ人にとつては理屈に深入りすることもこれまた實行功德の一方便だ。世の中の知識水準が進めば、自然さういふ方面の人も殖えるわけで、この點を考慮に入れないと、プラグマチズムも飛んだ間違ひになる。が、それだけの條件をつけて考へれば、プラグマチズムの理論も一應は賛成できる。これを人生の雑多な方面にこちつけて應用すると、いろ／＼面白い皮肉が編み出される。

例へば、茲に向軍治といふ先生がある。この先生は語學の達人を以て聽こえ、語學にかけ

ては天下ただ乃公のみだといはんばかりの、善い氣持な萬年小僧で、日本の翻譯はみな誤譯だと氣焰を擧げる。この人、坪内博士や何々博士の翻譯には中學生程度の誤譯が珍しくないといふやうな當るべからざる鼻いきで、小ざかしくも先達て筆者の拙譯「資本論」をも誤譯だらけだとコキおろした。「資本論」だつて、どうせ人間のやつた翻譯だから、誤譯もあらうし、誤植もあらうが、徒らに他人の誤譯呼はりだけに陶醉したからとて、それで日本の翻譯が大して向上するわけのものでない。そんな他人の誤譯が氣になつて慨はしいなら、一つ乃公自身好翻譯の見本を提供して範を後世に垂れる工風でもしたらよささうなものだが、さういふことは一向にしない。筆者は彼れが筆者に對して言つた通りのことを、彼れに對しても言はうと思つて、彼れの翻譯書なるものを一わたり搜して見たが、薄ッぺらな芋煎餅みたいな教科書二三冊以外には何も見當らなかつた。

これで他人の誤譯呼はりも、すさまじいものだが、斯ういふ人間はどれほど語學の達人か

知らぬが、事實に於いて日本翻譯界のために何を貢献したかと揶揄ひたくなる。語學は彼れほど出来ないとしても、實際翻譯上に多量の仕事をしてゐる人間は、矢張りそれだけこの方面の人生に貢献してゐるわけで、持ち腐れの實に納まつて一生を棒に振る怠惰で卑怯な日陰者よりは、南京米でも、人蔘でも、ドン／＼生産して賣り出した力行者の方がプラグマチズムの理屈からいへば、遙に眞理の急所を抑へた翻譯者だといひ得るであらう。

三、歴史の必然性無視

餘談は扱て措き、ムツソリーニの「無思想の思想」といふものも、恐らく斯うした理屈を至つて素朴に應用したものに過ぎぬと思はれるが、彼れの生一本なプラグマ的實行論でゆくと、歴史の必然性を穿鑿する如きは愚の骨頂だといふことになる。結果は利那の行動から創造されるものであり、行動と行動との間には特殊の因果關係がないとするのであるから、歴

史の進行に必然の因果合則性といふものはない。ただ、單純な信仰から來る行動の創造を以て、結果の創造を迫出してゆくの外はない。この點に於いて、ムツソリーニの思想はマルキシズムと好個の對照を成してゐる。

マルキシズムに於いては、歴史の必然性といふことが一切である。「人類は彼等の生活の社會的生産に於いて一定の、必然的の、彼等の意志から獨立した事情に、即ち彼等の物質的生産力の一定の發達段階に相應した生産事情に入るもので」あつて、これが「法律上並びに政治上の上部構造を作り上げる現實的の基礎」となるものであり、また「これに相應した一定の社會的意識形態を生ぜしめるものである。人類の意識がその生活を決定するのではなく、寧ろ反對に人類の社會的存在がその意識を決定する」といふのが、マルキシズム歴史觀の根柢となつてゐる。この公式は人類の實生活を重要視する點で、ムツソリーニの實行主義と共通するところある如くに見えるが、それは理論構造上の實生活重要視であつて、生産事情の

進行に於ける因果必然律が人類の凡ゆる社會的生活、社會的意識形態を決定すると説く理論の樹立に過ぎぬのであるから、結局は一種の合理必然主義に歸してしまふ。

國家社會主義も亦、この方面で合理必然主義に従ふものであるから、その限りに於いてマルキシズムと共通し、ムツソリーニズムとは對蹠を成してゐる。マルキシズムと國家社會主義との區別は、この歴史的合理主義の内容にあるのであつて、歴史的合理主義そのものに發足する一點は兩者に共通してゐる。

ところで、その内容がどう違ふかといへば、マルキシズムに於いては、生産事情が法律上並びに政治上の「上部構造」を決定するのであるが、國家社會主義に於いては、生産事情と法律政治との關係は基礎構造と上部構造との關係ではなく、寧ろ内容と形式、裏と表との同時並行的關係である。原因と結果との縱列的關係ではない。一定の生産形態には必ず一定の政治法律的形態が伴はれ、一定の政治法律的形態を離れて一定の生産形態を考へることは出來

史の進行に必然の因果合則性といふものはない。ただ、單純な信仰から來る行動の創造を以て、結果の創造を迫出してゆくの外はない。この點に於いて、ムツソリーニの思想はマルキシズムと好個の對照を成してゐる。

マルキシズムに於いては、歴史の必然性といふことが一切である。「人類は彼等の生活の社會的生産に於いて一定の、必然的の、彼等の意志から獨立した事情に、即ち彼等の物質的生産力の一定の發達段階に相應した生産事情に入るもので」あつて、これが「法律上並びに政治上の上部構造を作り上げる現實的の基礎」となるものであり、また「これに相應した一定の社會的意識形態を生ぜしめるものである。人類の意識がその生活を決定するのではなく、寧ろ反對に人類の社會的存在がその意識を決定する」といふのが、マルキシズム歴史觀の根柢となつてゐる。この公式は人類の實生活を重要視する點で、ムツソリーニの實行主義と共通するところある如くに見えるが、それは理論構造上の實生活重要視であつて、生産事情の

進行に於ける因果必然律が人類の凡ゆる社會的生活、社會的意識形態を決定すると説く理論の樹立に過ぎぬのであるから、結局は一種の合理必然主義に歸してしまふ。

國家社會主義も亦、この方面で合理必然主義に従ふものであるから、その限りに於いてマルキシズムと共通し、ムツソリーニズムとは對照を成してゐる。マルキシズムと國家社會主義との區別は、この歴史的合理主義の内容にあるのであつて、歴史的合理主義そのものに發足する一點は兩者に共通してゐる。

ところで、その内容がどう違ふかといへば、マルキシズムに於いては、生産事情が法律上並びに政治上の「上部構造」を決定するのであるが、國家社會主義に於いては、生産事情と法律政治との關係は基礎構造と上部構造との關係ではなく、寧ろ内容と形式、裏と表との同時並行的關係である。原因と結果との縦列的關係ではない。一定の生産形態には必ず一定の政治法律的形態が伴はれ、一定の政治法律的形態を離れて一定の生産形態を考へることは出來

ぬけれども、それは随伴相照の關係であつて、一方が他方を決定するといふ性質のものではない。

四、人類のエゴイズム

生産が人類生活上の必要から直接に生じた如く、政治も亦社會的生活上の必要から直接に生じたものである。政治の本質は、社會的に必要なる秩序又は統制にある。人間は社會的動物の一種であつて、如何なる人間も社會的結合のもとに生活してゐる。社會的結合のもとに生活する生物個體は、その結合を強大にすることに依つてのみ充分に自己を保存し發展せしめることが出来る。

生物の社會的結合はこの様に、自己保存の必要上發達して來たものであるが、この結合の發達につれて社會的本能がますます強くなり、それにつれてまた社會的結合がますます強くなつて來る。然るに生物の本能の中では、自己保存慾といふものが最も原始的な普遍的な要素となつてゐて、社會的本能の如きも、本來は主としてこの自己保存慾から派生して來たものである。

そこで生物の本能の中では、絶えずこの兩要素間の闘争が行はれる。この異種本能間の闘争は、人類に至つて更に複雑となり深刻化されて來る。蓋し自己保存本能が社會的本能といふ對抗力を生ぜしめた如く、社會的本能は又、猜疑心や優勝慾その他の如き一見反社會的本能と思はれる對抗力を助長して、これが本來の自己保存本能と結合し一種の複雑なエゴイズムを構成することになるからである。そこでエゴイズムなるものは、人類にも他の凡ゆる生物にも共通した最も原始的の強力な本能であるが、人類のエゴイズムは他の生物に比して遙かに複雑であり、総合的であるといふことになる。随つて、その力の強さ、その影響の及ぶところも亦、他の生物のエゴイズムに比して遙かに強大であり深刻である。

五、支配機能の確立

個々の人類は、程度の差こそあれ、みな斯うした複雑なエゴイズムの持主である。これが絶えず社会的本能と衝突する。斯様なエゴイズムの發動を若し勢ひの赴く儘に放任して置くならば、人類の社会的結合は遂に破壊されることを免れない。さればといつて、原始的の社会的本能のみを以てこれを統制し調節することは不可能である。そこで第二次の社会的結合要素として、茲に支配といふ政治法律的機能が發動して来る。つまり、各人が勝手のことをしてゐては社會がもち切れない。さればといつて、各人の胸に潜む社会的本能の力だけではこれをどうすることも出来ぬといふところから、何等かの程度で強制を加味した支配の機能が發動して来るわけだ。

この支配統制は、極く單純な形では如何なる社會にも發動してゐる。それは幾人かの個人が團合するとき、必ず其處に何等かの形で規則又は規約といふやうなものが成立するところを見ても解る。秩序の方面から見た社會は、總てこの支配機能の現はれだといふことが出来る。尤も、この機能は同質結合の單純社會にあつては、他の社会的機能から分化獨立することなく、總ての機能が混淆して結合的に作用してゐる。それはちやうど下等生物の身體諸機能がそれ／＼特殊の器官を有することなく、總てが混合的に作用してゐるのと同じである。然るに、生物の發達段階が進んで、高等な生物となるに従ひ、各種の身體機能が互ひに分化獨立して、それ／＼の機能を擔任する特殊の器官ができて来る。消化榮養のためには特に胃腸ができ、排泄のためには肛門や汗腺ができ、呼吸のためには肺臟ができるといふ如き有様である。

それと同じやうに、社會が複雑となり、異質結合の度合が進むにつれて、支配統制の機能が次第に他の社会的諸機能から分化獨立する傾きがある。支配機能の分化は、斯様に社会的

必要上から生ずるものであるが、更らに人類のエゴイズムの中にあつて特殊の位置を占むる優勝的の欲望が、一度び現はれた支配機能分化の傾向を助長するところの主観的因子として作用する。人類の欲望には色々あるが、とりわけこの優勝慾は強い決定力を有つてゐる。マルクスの學說に依れば、生産事情の發達が他の一切の社會的發達を決定するといふのであるが、この説は兎もすれば物質的の生活慾が他の一切の慾望を決定するといふ意味に解され易い。が、人類の生活慾といふものは、決して普遍常住的に決定力を有つものでない。それが決定力を有つのは、人類が餓死の瀬戸際に立つた瞬間か、又は少なくとも生活難の境遇に置かれた場合に限られる。一度び何等かの程度で生活上の餘裕を有つた瞬間から、他の各種の慾望、殊に性慾とこの優勝慾とが決定的に作用して來る。

優勝慾とは、自己の力を社會的に誇示し認識せしめようとする慾望である。この力の表現形態が何であるかといふことは問ふところでない。それは物質的富の形をとることもあれば

學問や、體力や、又は武術の形をとることもある。けれども、その最も直接にして且つ普遍的なもの政治上の支配的位置である。この支配的位置の獲得といふことが、優勝的慾望の最も熾烈なる追求對象となる。而して一度び萌し始めた支配機能分化の傾向は、この慾望の發動に依つてますますその勢を強め、その勢ひが強くなればなるほど、この慾望の發動も更らにますます強くなつて來る。斯くして支配機能分化の勢ひは、ますます促進せしめられることになるのである。

この支配機能分化の傾向は、謂はゆる有史前期的種族社會に於いても、或る段階からは既に可なり著しく進んでゐた。當時既に武將や裁判官の如きものがあつて、一部のこの機能を担当するといふ有様であつた。けれどもこの機能が總括的に分化獨立して、それが特殊の社會群に依り擔任されるといふ状態に達するには或る特殊の社會的出來事を必要とした。それは種族對種族の衝突である。種族衝突の原因は一様でない。食物缺乏のために、比較

的食物の潤澤な他種族を侵すといふ場合もあるし、又は單なる優勝的戰鬥慾に驅られて衝突を惹き起すといふ場合もある。いづれの動機からにもせよ、一度び種族對種族の衝突が生じて、一方の種族が他方の種族に征服せられたとき、征服せられた方の種族は軍卒又は奴隸として優勝種族のために驅使せられる。茲に始めて、征服的社會群と被征服的社會群との對立を來たす、と同時に、從來種族内部に發動し發達してゐた支配統制の機能が、征服的社會群の手に歸し、茲に征服者は支配階級となり、被征服者は被支配階級となつて、階級對立といふ特殊の社會的關係を生ぜしめる。種族社會が一定の地域に占據して、その支配機能が斯くの如く階級といふ特殊の社會群の擔任に歸したとき、その社會を國家と謂ふ。隨つて、國家の本質的要素は、土地と、社會と、階級支配といふ三つの分子から成る。

社會學者の中には、種族征服といふ原因に依つて階級が成立し、隨つて國家が成立するといふ風に説く人もあるが、如何に種族征服が行はれても、征服以前の種族社會内部に豫め

支配統制の機能が働いて居らなければ、征服種族が支配階級となり得る筈はない。征服と共に支配が生ずると見る如きは、支配その者の本質に對する認識不足から來るところの淺見である。征服以前の社會内部にも既に、支配統制の機能が發達してゐたからこそ、征服の事實が階級支配、隨つてまた國家成立の條件となり得たのである。それ故、征服の事實は階級又は國家の成立の原因ではなく、單なる必要條件又は機縁と見るべきであつて、原因は寧ろ支配機能の分化特殊化といふ先行事實にあつたとせねばならぬ。

六、彼れのオポルチュニズム

以上、些か脱線氣味を承知の上で、國家社會主義政治觀の論據を紹介することに深入りし過ぎたが、これで見ても、國家社會主義とマルキシズムとの論旨の内容に著しき差異の存することが知られるであらう。マルキシズムに於いては、生産事情が基礎構造であつて、政

治法律上の形態はその結果的上部構造に過ぎず、階級支配といふ特殊の政治關係についていへば、それは勞働搾取といふ經濟的關係の基礎から生ずるところの法的上部構造なのである。然るに、國家社會主義の見地に於いては、政治的關係は社會的生活の秩序的、形式的方面を構成するものであつて、それ自身、社會的生活の必要上から直接に發展し來たつたものである。社會的生活の秩序的方面は經濟的實質の結果ではなく、實質に對する形式の關係に立つ。外部的に見れば、經濟そのものも一の秩序であつて、一定の經濟的關係は必ず一定の法的秩序を前提するものである。さればといつて、法的秩序が經濟的關係の原因であるとは、勿論いひ得ない。經濟的關係も、法律政治的關係も、それ／＼独自の立場を守つて互ひに照應しつつ、社會生活の必要から成立し且つ發展し來たつたものと見るべきである。

この見地に於いて、國家社會主義はマルキシズムと根本的に一致し難い立場にあるが、歴史の必然性を認める一點は兩者區別するところがない。然るに、ムツソリーニの立場は單純

なる實行創造主義であつて、刹那々々の行動の如何に従ひ歴史の形態は如何様にも形成せられ得るといふのである。「學者的態度を以て舌鋒鋭くつめ寄せる反對論者は、つねに勇氣なき臆病者である。」百の理論を喋々するよりも、一の威嚇報復的行爲の方が、遙かにヨリ多く歴史的價値を創造し得る。——彼れは斯ういふ立場から旺んに利那的行動の功德を絶叫した。

斯かる實行創造主義が、實際政策上極端なるオポルチニズムに陥ることは、避けられぬところである。ムツソリーニが如何に徹底したオポルチニストであるかは、過去に於ける彼れの政治的經歷が最も雄辯に論證してゐる。が、なかんづく、君主政治に對する彼れの態度の轉變は素晴らしいものであつた。彼れは一九二二年初葉までは、ファシスト革命に依つて立憲君主制を顛覆し、これに代ふるに共和の假面を着けたファシスト寡頭政治を以てせんとしてゐた。然るに一九二二年四月、イタリア皇帝のミラノ行幸以來、彼れの共和論は次第にその鋒鈍を弱め、一轉して君主是認主義の傾向を示すやうになつた。同年九月二十日

ウヂイネに於けるフラスシスト革命宣言の發表に際して、彼れは「國體を永久的ならしむべきか否かは、専ら國民の精神的狀態と物質的事情との如何に依ることであつて、一概に論斷し得ない」と説き、「王室はフラスシスト革命と關係なきものであるが、萬一王室が過つて我等に反對の態度をとる如きことあらば、我等は斷乎としてこれに備ふるところなければならぬ。けれども我等は決して斯かることがあるべきでないと信ずるから、王室に對しては常に熱心なる擁護者たることを失はない」と述べた。

これで見ると、王室がフラスシストに好意を有たれる限りは、フラスシストも亦王室を擁護すべきであるといふ一種條件づきの尊王範圍を出でなかつたことを知り得るが、その後、フラスシストに加盟せる青年、軍人、労働者等の大多數が熱心なる帝制謳歌者であることを知るや、ムツソリーニの態度も亦次第に絶對尊王主義に豹變して來た。が、その反面にまた彼れが絶えずフラスシスト寡頭政治を絶叫してゐたことも事實である。

七、デモクラシーと獨裁主義

ムツソリーニズムの根柢が素朴プラグマチズムの上に立ち、極端な實行創造主義とオボルチュニズムとに終始してゐることは、以上述べた通りである。が、ムツソリーニズムの有無に拘らず、現實社會の發展は個人々の意識を超越した必然の因果過程を辿つて進むものであるから、一定の固定した主義主張に囚はれないと自稱するムツソリーニズムも、結果に於いては矢張り何等かの主義主張を固定的に確立する傾向を免れることが出來ぬ。斯様にして政治上の國家集權主義、經濟上の個人分權主義といふ主張傾向が、フラスシズムの特徴となつて來たのである。

國家集權主義といつても、ムツソリーニズムの場合には、それが強烈なる寡頭獨裁主義に依つて彩られてゐることは言ふ迄もない。ムツソリーニは曰く「議會政治は、歴史の創造的

因子たる個性を窒息せしめて、國家の制度を機械化せんとするものである」と。然らば彼れは、斯くの如き機械化的政治に代ふるに如何なる政治形態を以てせんとするか。曰く「フラスシスト革命の重大なる意義は、國家メカニズムから國民を脱却せしめ、個性尊重主義に立つ偉大なる人格者をして、國家に活力を附與し得るところの政體を樹立するにある。」つまり英雄獨裁主義の樹立、これがフラスシスト革命の目的とするところである。議會政治は個性壓殺の機械主義に墮するからいけない。眞に威望あり、手腕あり、實行力ある人傑の獨裁政治は、創造と果斷決行との閃きに動くものであるから、たとひ專制主義、集權主義であつても、それは決して個性の發動を殺すやうなことがない。

この見地は、國家社會主義の立場からも一應は是認し得る。政治の本質が支配統制に在ることは、上述の通りである。支配の目的からいへば、專制獨裁政治が一番有効であるから、随つてそれが一番望ましい政治形態だといふことになる。支配の主體は、少數の手腕家ほど

能率を擧げ易い。國家以外の團體統制に於いてもさうであるが、國家の政治に於いては殊に然りとせられる。

茲に若し一人の優秀な英傑があつて、國家の結合維持に必要な一切の支配機能を直接に擔任行使するといふことであれば、それが支配機能發揮の上から見て、一番單純でもあり有効でもある。

が、茲に問題となることは、さういふ英傑は求めてつねに得られるわけのものでない。そこで若し、さういふ英傑が居らないとすれば、その場合には英傑的祖先に對する國民の傳統的禮讃を以て支配者の現實的資格に代用せしめることも出来るが、文明が進んで國民のエゴイズムが深刻化し、個人意識が発達すると、それだけではなかく一國の政治を行ひ得なくなる。何等かの形、何等かの程度で、支配上に國民の意志を採用又は斟酌せねばならなくなつて来る。即ち、政治のデモクラシー化なるものが行はれる所以である。議會政治なるもの

は、斯かる政治デモクラシー化の一の現はれに過ぎぬ。その意味に於いて、議會政治も亦、政治發達上の必然的産物といひ得るのである。

けれども、政治の本質は支配にあつて、支配は少數支配ほど能率を擧げ易いのであるから多數支配の別稱の如く見られてゐる議會政治の樹立後に於いても、事實に於いては矢張り少數支配が行はれることを避けられぬ。議會政治の下に於ける國民意志の代表團體たる政黨の内部を見ると、其處には名目の如何に拘らず、例外なしに幹部政治が行はれてゐる。幹部は少數であるから幹部政治は少數政治と異ならぬ。そこで若し、議會政治は政黨政治でなければならぬとするデモクラシーの定則に従ふとすれば、議會政治も亦、實質上は少數政治だといふことになる。

これで見ても、議會政治は少數政治の否定又は對蹠を意味するものでなく、寧ろ少數政治の變形に過ぎぬことが知られる。つまり實質は少數政治だが、表面は多數政治であるかのや

うに見せかける、羊頭狗肉、言ひ換へれば羊の皮を着た狼である。その限りで、議會政治は存在の理由を充分に有つてゐる。が、若し、この羊頭狗肉の實を示すことが出来ず、羊頭を掲げて羊肉を賣り、狼の實質を羊に轉化せしめようとするまでデモクラシーが素朴放縱化されたとき、政治の本體は尻をまくる。國家社會主義の立場からすれば、議會政治も、獨裁政治も、共に少數支配の表現形態たる意味に於いて存在の理由を有つものであるが、放縱デモクラシー跋扈の反動としてのファシオ的超議會主義にも、一應の道理があることを拒むわけには行かぬ。

八、産業上の自由主義

ムツソリーニズムは、この國家集權主義と相並んで、産業上には寧ろ極端なる分權主義を採用するものである。この産業上の分權主義は、資本私有と個人企業とに立脚するところの

自由主義を意味するものであつて、政治上に極力自由主義を否定するムツソリーニズムが、一面産業上に斯かる自由主義原理を採用せんとすることは、注目すべき錯誤現象といはねばならぬ。ムツソリーニズムが或る時は反動主義と謂はれ、或る時はまた資本主義の走狗の如く謂はれる所以は茲にある。ムツソリーニズムを以て反動主義とすることには、本質上の無理があると思はれるが、少なくとも資本主義とムツソリーニズムとの間に緊密な類縁關係があることは拒まれぬ。國家集權主義なるが故に反動的だといふならば、國家社會主義はムツソリーニズムよりも更に徹底した反動主義なることを自任する。

從來イタリヤの政界では社會黨が有力な地歩を占め、政府を強要して着々國家主義的經濟政策を採用せしめてゐた。この傾向は勿論、資本家階級の喜ばざるところであつた。彼等は機會ある毎にこれを防遏して自由主義的企業を恢復しようとして策謀してゐた。政府の社會主義的産業方策は、事實上にも餘り好結果を示さなかつた。これ一にはイタリヤの政局が不斷安

定を缺き、政權の移動が頻繁であつたため、一度び採用した社會主義的政策もこれを充分に遂行する追がなかつたことにも依るが、兎に角斯ういふ形勢の下にあつて、イタリヤの資本家階級は頻りに社會主義的産業政策の打破を主張してゐた。ムツソリーニの産業分權主義は斯かる資本主義的要求に呼應して成り立つたものといふことが出来る。

國家社會主義の見地からすれば、集權的獨裁國家の確立は集中的産業制度の確立に絶好の政治的地盤を提供するものであるから、この機に乗じて一舉に産業社會化の實現を徹底せしむべき筈であつたが、ムツソリーニはその逆を行つて、獨裁國家主義の樹立に表裏して、産業自由主義を恢復しようとしてゐる。彼れは私有制度を謳歌して曰く「財産の私有は、個人の活動力と、企業精神と、産業發達とを誘致するに最も必要な條件の一となるものである。國家と雖も、この個人の自由なる活動性に干渉することを得ず、政府の吏僚を以てこの私營事業家に代置するが如きは到底許されぬところであるから、財産の私有と個人企業とは絶對

にこれを維持し保護することを要する」と。宛としてこれ、我が武藤山治先生の口吻ではな
いか。

彼れはこの立場から、社会黨提案の急進的遺産相續税に反対した。彼れが奢侈税廢止を主張した論據も亦、茲にあつた。チオリツチ内閣は社会黨の強要に依つて極端なる奢侈税を制定したが、斯くの如き施設は徒らに課税負擔を富者にのみ轉嫁すべしとの觀念を助長するが故に不可であるとの見地から、ムツソリーニは一九二二年十二月以來その大半を廢止してしまつた。

また一九二〇年、チオリツチ内閣は有價證券の強制登記を制定して、投機熱の防止を圖つたけれども、斯かる施設も百害あつて一利なしとの見地から、ムツソリーニは一九二二年十一月の勅令を以て、これを全廢した。更らに、同じ政府の下に設置された物價公定委員會についても、斯様な官僚的施設は國民の商取引を妨害すること甚だしきものだとの理由で、一

九二四年一月の勅令に依りこれを全廢してしまつた。それから、チオリツチ政府の下で社会黨の強要に依つて制定された強制管理法は、家屋の明渡及び課税について専ら借家人を保護せんとしたものであるが、斯かる施設は却つて建築事業の發達を妨げ、都市の土地私有者をして賃貸料を取得し難き境地に陥らしむる虞れあるが故に不可であるとして、ムツソリーニは一九二二年一月の勅令を以てこれを『一定の猶豫期間を置いて自由契約をなし得る』といふ形に變更し、更らに一九二三年三月の勅令を以て『一九二二年六月三十日より一九二五年六月三十日に至る期間に起工して完成したる建築物に對しては、二十五年間にわたり國稅、州稅又は市町村稅を免除する』との補足を加へた。

最後に、鐵道經營については、形式上これを國家の手から分離して、鐵道高等委員の下に管理せしめ、従業員は擧つてこれをフアスシスト鐵道團體に加盟せしめるといふ、折衷的政策を採用することになつた。

九、ムツソリーニズムの將來

要するに、ムツソリーニの産業政策は資本的企業主義の根柢に立つものであつて、資本主義經濟に必然隨伴すべき幾多の社會的弊害に對しては、別に各種の社會政策的施設を以てこれを救済しようとする。近頃流行の新自由主義とやらと瓜二つの行き方である。國家社會主義は、政治上の國家主義を産業上にまで徹底せしめんとするものであるから、この點ムツソリーニズムとは全く對蹠的の位置に立つ。

資本主義經濟の進行は、一面に於いて各資本家の手に集積される資本の單位量を大ならしめると同時に、一面また單位資本の併合集中を助長する。マルクスの謂ふ如く、資本主義生産の下に於いては、「つねに一人の資本家が多くの資本家を殺すのである。」この資本集中の勢ひが、若し何等の障礙にも出會ふことなく自由に進行してゆくとすれば、終局に於いて資本

家の數は次第に少なくなり、遂には一産業に投ぜられる一切の資本が結合されて、單一なる資本家の指揮の下に置かれる時が来る。これが、一の産業部面に於いて達し得る極度の資本集中形態である。また、一の社會についていへば、單一なる個人資本家又は資本家會社の手に、社會的資本の全部が合一される瞬間に到達し得るであらう。これが、一社會の内部に於いて達し得る極度の資本集中形態である。國家社會主義は斯かる資本集中の必然的傾向を視野に置き、天の未だ雨降らざる間に社會的必然の進行を先鞭して、國家を資本の所有經營主體たらしめんとするものであるから、その主張の根柢は現實主義的に首尾一貫してゐるものといひ得る。國家社會主義は政治上にも國家主義、經濟上にも國家主義である。これが現實に於いて國家を生かす唯一の道であり、これが近き將來に於いて社會的必然の到達すべき唯一の歸結であると信ずる。政治上の國家主義をして、ムツソリーニズムの如き寡頭獨裁主義の形態を採らしめるか、それとも民衆的議會主義の姿容を採らしめるかといふことは、便宜

上の問題であつて、本質的には何等關係するところがない。

國家社會主義の見地からすれば、ムツソリーニズムが政治上の國家集權主義に立つて、産業上の分權自由主義に溺没したことは、論理上の破綻を意味すると同時に、また事實上の苦境を豫兆するものでもある。尤も、この點は、マルキシズムの流派たる社會民主主義に於いても同一轍である。社會民主主義は、政治上の自由主義、産業上の國家主義を辿らんとするものであるから、ムツソリーニの兩刀を反對に置きかへただけの違ひで、矛盾の本體に區別はない。社會民主主義は、政治上の民主主義を産業上にまで徹底せしめんとするものだと主張もあるが、謂ふところの政治上の民主主義とは政權分散の自由主義を意味するものらしいから、この意味に解するときには社會民主主義も亦、産業上の武藤山治先生と異ならぬことになつてしまふ。いづれにしても、その主張的立脚點の錯綜は、ムツソリーニズムと五十歩百歩である。

が、如何なる主義主張も人を得ての問題であり、人を得れば無理も道理に引つ込む慣ひであるから、ムツソリーニといふ超凡的人傑の存在を中心保存し得る限り、ムツソリーニズムも當分は現状を維持して、甚だしき破綻を示すことなしに進み得るであらう。けれども個人は有限、必然は絶對であるから、ムツソリーニなる人物の存在を永久に期待し得ないことは勿論、假りにその可なり久しきに亘る存続を假定し得るにしたところで、社會的事情の必然は早晚彼れの主張的立脚點をいづれの方角にか徹底せしめずしては已まない。即ちその獨裁的國家集權主義の苛烈さを民主的に緩和させて産業自由主義を救済するか、然らずんばその産業自由主義を放擲して、經濟上にも、政治上にも、國家的集權主義を徹底的に一貫せしめるか、ムツソリーニズムの進むべき將來の方角はこの二つしかない。後者に進めば國家社會主義に落ち着くが、前者に進めばブルジョア自由主義の完成となる。種々なる事情から推して、ムツソリーニズムは結局、後者に落ちつくのではないかと信ぜしめる可能が比較的多

いやうでもある。

何は兎もあれ、ムツソリーニといふ野郎の人物には、その現物は幸にしてまだ見たこともないが、陰ながら惚れ込まぬわけにはゆかない。その強情、その出足の速さ、そのネバリその敏感さ、その馬力の強さは兎も角、ライオンとふざけたり、ピストルにかすられた鼻の頭を撫で廻して英雄ぶつたりする稚氣満々さは、一面に於ける彼れの無頼漢的善良さを表白して餘りある。レニンのやうに、木乃伊になつて迄ものズルさ偽善さが鼻につかぬだけでも助かるといふもの。上杉博士は彼れを輕蔑して、市井一介の無頼漢に過ぎぬといはれた。無頼漢や鍛冶屋の大將なればこそ、我々どときガサツ者にさへ、何かにつけてちやほやされる所以であらう。

ムツソリーニ褒貶記

一、世界舞臺の三人男

×

明治維新の三傑として西郷、木戸、大久保を算へ、伊太利建國の三傑として、カヴール、マツチニー、ガリバルヂーを算へるやうに、時代の代表人物に三名を選定するのは東西古今を通じての常則であるらしい。そこで「世界舞臺の三人男」といふ課題を提供されることになつたのであらうが、萬人に異議なき三人物を拾ひ出して來ることは、如何にも容易でありさうだが實は甚だ容易でない。殊に現代といふ概念の決定如何では、釋迦やキリストやマホメットも、現代人の精神生活を支配してゐる意味でその三傑に算へられやうし、ワットやカ

トライトやエヂソンの科學者、マルクスやクロボトキンやレニンの社會思想家、その他凡百の範圍で凡百の三傑三士が発見されるであらう。若し現代の意味を局限し、現に生ける人間の間から求めるにしても、學者、軍人、實業家、思想家等、毛色の相違は直に人物の相違に導くべきを以て、いづれを三傑といづれを三士とすべきか甚だ迷はざるを得ない。加ふるに現代は、デモクラシーの時代と稱せられるだけあつて超凡的英雄が少く、一國一代を統率する人物としてはムツソリーニとレニンぐらゐなもの、而もレニン他界せる後のロシアには中樞人物を缺き、人物らしい人物はムツソリーニの一傑を算へるのみ。ケマルパシヤやリザ、カーンや、さてはガンジーやザクルールや、白人專制に對抗する傑士として有名であるが、規局は小であり、ヒンデンブルグやポアンカレーでも、彼れに比較すると遺憾ながら壓力が薄弱である。そこで滿場起立で賛意を表する唯一の人物としてムツソリーニを擧げて、これと鼎立すべき他の二人物の發見が困難となつてしまふ。而も課題は飽くまで

「三人物」である以上、跛行的なりにも誰れか尤もらしい人物を捜し出して來なければなるまい。

私は敢てフランスのブリアンと、イギリスのマクドナルドとを組み合はせ、曲りなりにもこのトリオを成立させたいと思ふ。言ふまでもなく、この二人を持ち出したことは、何にも私が特に彼等の人と爲りに敬服するからでなく、取り立てて好きな人物だからといふ譯でもない。あれやこれやと物色した揚句、主義者上りの三つの毛色を代表する人物として、彼等相互に多大の因縁を發見すると同時に、現役と豫備との相違はあつても、共に歐洲政界の立役者たる點に多少の人物的要素を發見し得たからに外ならない。選擇の當否は、素より拙者に於いて責任を負はぬつもりである。

X

先づ最初はムツソリーニである。彼れの人物や思想については、これまで色んな雑誌新聞

に書き散らして来たから、これから言はんとすることも或は知る人ぞ知るであらう。が、兎に角も現代の人物としては、彼れこそ一番に指を屈せられる男でなければならぬ。

ムツソリーニその名をベニトー、一八八三年イタリアは東北岸の寒村に生れた。父は鍛冶屋で急進的な社会主義者、母は典型的な良妻賢母で女教員、その長男に生れた彼れは手のつけられぬ腕白小僧だつたが幸ひに頭腦だけは明晰、退校と轉校を繰返しながら師範學校を卒業し、十九の時に小學校の校長となる事が出来た。居ること一年、青雲の志を抱いてスチスに向つたが、留守中父が革命運動の嫌疑で投獄されたことと、みづからも衣食に窮して各種の勞働に轉々する間に諸國の革命客と交遊せる結果、いつしか極左端の社会主義的洗禮を受け、追放に續く追放でスチスとフランスとオーストリーと、そしてまた故國とを放浪しなければならなかつた。その間に彼れは、妻を迎へ子を儲けたが一ヶ月の収入は四十錢足らずといふ状態、あらゆる貧苦と壓迫とに當面しつつ、演説に文章に實行に運動を續けたのである。

る。

當時の亂暴狼籍ぶりは徹底したものであつた。最初の選挙に失敗したとき彼れは憤慨の餘り投票箱を叩き壊して逃げ出した。皇帝が無政府主義者に狙撃されたとき、社会黨の領袖ボノミ（後の總理大臣）が見舞に伺候したといふので暴行を加へた。黨の大會がある度毎に幹部攻撃をやらかし、彼等が民主的で改良的であり過ぎることを難じ、いつも過激派の先陣を切つてゐた。トリポリ戦争に際しては非戦論を高唱し、それがため一年の懲役に送られねばならなかつた。その他、等、等。彼れは社会黨内での亂暴者で名を賣り、次第に一方の勢力を築き上げ、機關新聞の主筆から押しも押されぬ領袖の地位を獲得したのである。

これほど亂暴者で過激派ではあつたが、然しおのづからにして『三ツ兒の魂』を藏し、彼れの思想は爾餘凡百の主義者連と違つて、飽くまで『現實的』なることを特徴とし、カラ元氣やツケ景氣で議論のために議論をするといふ空想的なところはなかつた。革命的であるこ

とは、それ自體が社會黨の無氣力を救ふ所以であり、延いてイタリアの建國的意義に合し得る所以であるとの見地からなされたものに外ならぬ。そこで同じ極端派でありながら、獨特の立場が披瀝されてゐたと言ひ得る。

斯くて、彼れと彼等との分離は當然に豫想された。その機會は歐洲大戰である。

X

歐洲大戰が勃發するや、他の諸國の如何なる社會黨も然りし如く、イタリア社會黨も非戰派と贊戰派とに分離した。後者の大將がムツソリーニであつたこと言ふまでもなく、彼れは「イタリア國民に古代英雄の精神を復活せしめること、世界に於けるイタリアの國際的地位を向上せしめること、國民の生活と習慣とに經濟的の革命を招來せしめること」の三個の理由を提示し、斯かる革命は戰爭に依つて始めて達成さるべきことを力説したのである。彼れの革命概念が、社會黨的な革命概念と一致するかしないかは別問題として、兎に角も

彼れが、餘りに機械化し取引化した國民生活を鍛錬せんがため、鐵火の洗禮を必要とすべしと達見せる點には、おのづからなる理由が存する。斯くてムツソリーニは、言論文章で主戰論を説くばかりでなく、自ら戰線に馳驅して敵彈を浴び、一躍ダヌンチオに續く愛國運動の偶像となるを得た。

一方、ムツソリーニがその革命的熱情の稀薄を見棄てて去つた社會黨も、戦後の財界不況に激發された不平分子を糾合し百六十人の代議士を送つて議會の第一黨となるや、盛んに政府を威嚇して政務の運用を妨害する、武装せる革命團は各地の工場を占領するといふ風に、内外呼應して政治と産業との破壊を開始したのである。ムツソリーニの率ゐるファススチは、斯かる共產黨的兇暴に對抗して驟起せる反對毒素であつたが、忽ちにして前者を壓倒し堂々とローマに進出してファクタ内閣の後退を強要する程の勢力となり、茲にムツソリーニの覇業は完全に樹立された譯である。

今やムツソリーニは一人で五大臣を兼攝し、獨裁專制の實權を確保しつつある。而も彼れ
の行ふ政策たるや、必ずしも謂はゆる反動的なものではなく、偏に國民本位の見地から資本
家と同時に労働者の犠牲を強要することがあつても、一流の彈壓手段ばかりで脅嚇してゐる
のではない。「生産者、筋肉労働者をして、知識労働者と同様に確乎たる教育に依り、各の
部屬に於ける連帶責任の意義を諒解せしめよ。而して凡ゆる寄生々活と專横とを排除し、こ
の生産者團體に可能な最大限度の利益を獲得せしめんため、その諸部屬間の衡平と協働とを
確立せしめよ。」

この宣言に明瞭な如く、ムツソリーニ治下のイタリヤは筋肉労働者と同時に知識労働者を
即ち生産者を本位とする社會への、建設を急ぎつつあることが知られる。現に上院に於いて
は、下院の地域代表に對する職業代表の制度を施行しつつあつたが、最近は彼れの持論たる
一院制度の確立を聲明し、同時にその議員は労働團體（筋肉的と同時に知識的）の代表者を

以てすべきことを内示するに至つたのである。破壊要素としての暴力背景を次第に疎遠なら
しめた彼れは、ファススチ直屬の労働組合聯盟を次第に鞏固ならしめ、殆ど全國の全組合
を包括するに至り、漸くにして建國的意圖を表明したなどは、如何にも善い意味の現實主義
者たることを語るものではないか。

彼れを當代の第一人者と推獎すること、俗論的人氣を離れても認容さるべきであらう。

X

「議會政治は歴史の創造的因子たる個性を窒息せしめ、國家の制度を機械化せんとする」
といふムツソリーニに對し、飽くまで議會主義の常軌を履み外さず、着々とその大を築き上
げつつある人物は、先の英國労働宰相ラムゼー・マクドナルドに外ならない。彼れは資本獨
裁であると労働獨裁であるとを問はず、苟くも多數意志の反映たる合法手段に訴へざる限り
聽従せんとはしない。その意味で彼れは、デモクラシーの忠實な戰士と言ひ得べく、ムツソ

リーニ主義もレニン主義も専制獨裁の故を以て拒否してゐる。

マクドナルドを主義者上りと呼ぶことは、或は失當の譏りを免れぬかも知れない。といふ意味は、依然として獨立労働黨の首領であり、第二インタの將帥である限り、嚴密な意味で社會主義を放棄したとは言ひ得ないからである。だが、當今の常識に従へば、平家に非ざるものは人に非ざる如く、ボリシエキキーに非ざるものは社會主義者に非ずである。殊にマクドナルド自身も、喧嘩相手の共産黨から『裏切り者』の名を公然と冠せられ、これに何等の抗議を發してゐない以上、廣く『主義者上りの政治家』といふ範圍に入れることに差し支はあるまい。

労働黨が第二黨の實力を以て内閣を組織したとき、内外のセンセーションは著しく挑發されたが、同時に、『素人政治家達に何が出来るか』と見くびられたのも事實である。然るに首相たるマクドナルドは、内政方面でも色々な味を見せたが、外交方面ではロイド・ヂョ

ーヂも、エトワード・グレーも、ボナー・ローも、ポールドウインも、カーゾンも、取りかへ引きかへ手を焼いた英佛關係を良化し、戦債問題に目鼻をつけ、英露國交を恢復する等、どうして素人らしからぬ腕の冴えを示した。さすがのポアンカレーですら、彼れの『謙讓な態度には抗争すべき武器がない』と述懐したさうだが、ポアンカレーがエリオと交替してからは、これにストレーゼマンを加へて宛然指導者の位置に立ち、安全保障問題を筆頭とする幾多の大陸的諸問題の解決に貢献したのである。勿論これは、イギリスといふ國力の背景が助けたからに違ひない。だが、それにしても、幾多の専門外交家が匙を投げた難問題を、些かの讓歩的態度を示さず解決の曙光に近づけ得たのは、凡手ならぬ彼れの政治家的才能を立證する所以でなければならぬ。そのため最初の懸念に反して、國民的人氣は次第に増大し、遂にはシビレをきらしたダイ・ハーツ連の毒殺に會ひ、愚にもつかぬキャンベル事件で倒れるの已むなかつたことは、そこが素人の素人たる悲しさといへ氣の毒なものである。

然し野黨となつた以後の労働黨は、倍舊の人氣を次第に培養し、一部づつ行はれる地方議會の選舉に於いては、昨年も今年も壓倒的大捷を以て酬られつつある。これを來たるべき總選舉に反映すれば、保守黨の牙城に肉薄するの易々たる業だが、たとひ思ひのままに行かなくとも『陛下の反對黨』の最後の勝利は確實に豫想され得る。マクドナルドの光輝燦然たる將來も隨つて確想し得べく、數年後の世界は彼れの揮ふ一本の指揮棒に左右されるかも知れない。彼れも亦『現代の人物』たるを失はぬ。

X

マクドナルドは、スコットランドのハムステッド生れ、年輩も五十そこそこだつたと記憶する。素より貧乏人の子弟であつたから、イートンやハローの教育も受けず、ケムブリッジやオックスフォードの教育も受けず、普通のボード・スクールに通學したのみである。青年時代から新聞記者を業とした。英國社會黨とも稱すべき獨立労働黨の創立に努力し、現在の

寄合世帯たる英國労働黨の成立にも與つて大なる力があつた。當時は十九世紀の終末から二十世紀の初頭へかけた頃だつたが、獨立労働黨の幹事として總務委員長として院内總理として、遺憾なく英才を示した。然るに世界大戰が勃發するや、彼れはその持論たる平和主義を固執し、黨友のヘンダーソンその他は戰時内閣の椅子に就くといふとき、みづからは周圍の迫害に會つて一切の公職を退かねばならず、爾來數年間は侮蔑と排斥のため議席を得ることさへ不可能であつた。一九二二年には再び擇ばれて院内總理となり、越えて二四年には宰相の印綬を帯び、數ヶ月にして倒れるや、又もハムステッドの簡易生活に還り、新聞記者としての収入で衣食を續けてゐる。

彼れ白哲の美丈夫、音吐は玉の如く澄み、頗るつきの雄辯家だといはれる。文章は大して優れてゐるといふのではないが、簡にして要を得る筆法は爲人を偲ばせるものがある。讀書と散歩に日を送る彼れ、目下は黨務の劇職から離れてゐるが、又來ん春には再び大英帝國の

宰相として活躍するであらう。

X

ムツソリーニとマクドナルドとを叙するに枚数を費し過ぎたので最後のブリアンは簡単に切り上げることにしたい。

アリスチード・ブリアンは前後九回の總理大臣を勤めた世界のレコード・ホルダーである。その他、平大臣の経験を合計すれば無慮二十數回に及ぶべく、現在も財政難と國防難を一身に背負つて活躍しつつある。首相か外相か、大戰以來のフランス閣僚に彼れの名を見出ださなかつたのは、ほんの一度か二度ぐらゐであつた。如何に猫の目の如く政變するフランスにしても、共和社會黨の外様大名でカラ馬に怪我なきブリアンにしても、これほど重寶がられるには、その政治的手腕の凡俗ならざりし理由が窺はれる。

現在のブリアンは典型的なオボルチュニストとして有名だ。一定の主義方針などは最初からなく、徹頭から徹尾まで臨機應變、才氣にまかせて何事も一氣呵成にやつて退ける。その點で彼れは、常にイギリスのロイド・チョーヂと比較されるが、鵝的存在といひ、雄辯といひ、風貌といひ、八方美人といひ、なるほど實によく似通つてゐる。唯だ人物の點に於いて少しドツシリとした印象を缺く憾みはあるが、合縦連衡の手腕は却つて上位なるべく、それが大臣記録の保持者たる名譽を與へた原因であらう。

圓轉滑脱なること斯くの如きブリアンであるが、その以前はサンヂカリストとして革命煽動の親玉、幾度も投獄の憂き目に會つて來た。いつかの植民戦争で勞働者に公然と總同盟罷業を強要し、兵士に脱走を宣傳したのは彼れである。國旗を堆肥に立てた男を辯護して（言ひ忘れたが彼れの商賣は辯護士兼新聞記者）有名になつたのも彼れである。さうした彼れも一九〇二年に始めて代議士となるや、ジョレス麾下の穩和社會黨に鞍替へし、政教分離案で奮闘したお蔭で文部大臣の椅子を酬われ（一九〇六年）、續いてフアリエール大統領の下に

最初の内閣を組織するに及び（一九〇九年）、昔日の革命家は再轉三轉していつの間にか職業的ブルジョア政治家と違はない男となつてゐた。殊に最初の宰相時代には、郵便従業員と鐵道従業員とに依つて行はれた二回に互る大規模のストライキがあり、これを鎮壓する手段として彼れは徵兵令を逆用し、軍法會議に依つて片ツ端しから叛逆罪で處斷したのである。さすがの暴徒もこれには辟易したが、それ以來、彼れはロイド・チヨーチと共に労働者の二大仇敵と狙はれねばならなかつた。

尤も最近ではホトボリも冷め、彼れも遠慮なく如才のないところを發揮してゐるので、同じ經路のミルラン（前大統領）みたいに國粹聯盟の總大將を氣取る必要もなく、鵝的存在なりに誰も「急進派」として怪しむ者がない。しかし、彼れの急進的態度は、昔ながらの主義主張の餘映と見るよりは、寧ろフランス議會の政勢分布が急進的態度の採用を便利とするからで、その日の風の吹きやうでその場の舵を取るのが鬼才ブリアンの政治的使命とするところである。

この徹底したオポルチュニスト振りは、ロイド・チヨーチを除いて外に匹敵する者を見ない。「政治は時の勢ひである」といふ定義に従へば、機に臨み變に應じて神出鬼没する彼れの如き、寔に得がたき政治家と稱するも過言ならざるべく、宰相記録の保持者たるも故なしとしない。ムツソリーニの「彈壓」、マクドナルドの「質實」に對すれば、ブリアンの「消脱」も共に當代の珍寶たるを失はぬ。第一者が反動型、第二者が正動型、共に兩極の磁針を指示してゐるに對し、第三者はその中間的存在といひ得るであらう。

二、誤解されたムツソリーニ

X

現代日本に於ける最大の人気役者は何といつてもイタリヤの彈壓宰相ベニトー・ムツソリーニである。彼れの人物經歷に關する著書の如きも、極最近だけで十指を以て算ふべく、悉

く多大の賣行きを示しつつあるといふ。筆者は勿論、その全部を通讀した譯ではないが、これら諸種の紹介に於いて甚だ遺憾に耐えぬことは、ムツソリーニ及びフラスストに關して肝腎の建設的方面が閑却され、専ら破壊的方面のみが強調されてゐる一事である。

戦後の赤色暴徒の跳梁跋扈に對して、成るほどムツソリーニとその一黨は如何にも彈壓的であつた。「光榮あるローマ」進軍は、斯くの如き傍若無人なる彈壓の記録であり、且つまた内外の諸政策も悉く男性的氣魄の發揚であつた。その限りに於いて、デモクラ的凡俗主義の弊害を痛感する現代日本國民が、彼れの具現する英雄主義的行動を隨喜渴仰する心理も窺はれる。が、しかし、ムツソリーニの全貌は、決してさうしたヒロイズムに於いてのみ理解し得べきではない。「祖國の富強なくして國民の幸福なし」といふフラスシオ的スローガンに俟つてまでもなく、彼れの思想行動の全部が國民主義に立脚する事實は疑ひを容れない。社會主義の排撃といふ一事も、實はそれが祖國の富強を障礙すればこそ敢行した手段であつ

て、決して資本家的利害に迎合せんがためのものではなかつた。

労働者たると資本家たるとを問はず、祖國の興廢を念慮とせざる思想行動は、彼れに取つて不俱戴天の仇敵である。國家無視的労働運動を彈壓する反面、更に自己の利潤獲得を唯一の目的とする資本家的行動に對しフラスシオ政府が斷然たる處置を採つた所以のものは、偏に斯かる信念に立脚するところあつたがためである。「階級闘争は舊時代の舊思想である」と彼等は言ふ。果して然るか否かは別問題として、ムツソリーニの如く祖國の利害休戚を第一義とする觀點からすれば、労働者も資本家も一視同仁であり、兩者の衝突が必然に國家の衰運を招來する以上、國家の強權を行使して緩和融合の方法を採る理由はおのづから察知し得られる。

然るに、我が國に於けるムツソリーニの追従者もしくは反對者は、彼れの特色を労働暴壓の一事に要約し、以て資本家的個人主義又は非國家的社會主義を是認する口實たらしめんと

してゐる。故意の誤解か無意の誤解か知らぬが、當のムツソリーニは定めし若干の苦笑を禁じ得ざるものがあらうと思はれる。

X

フアスシスト・イタリヤは言ふまでもなく、ポリシエキーキ・ロシヤの如き労働國家ではない。少くとも、労働者を本位とする國家ではないのである。けれども、労働者本位ではなくとも生産者本位の國家だとは言ひ得る。然り、生産者といふ意味を、凡ゆる生産事業の寄與者と解する限りに於いて現代イタリヤこそ最も多く生産者本位の國家と見るを得るだらう。「我等の理想とする國家は、總ての人間が進んで働き、一人の徒食者をも認めざるそれである」とムツソリーニは喝破する。労働者はその「労働」に於いて、技術家はその「技術」に於いて、資本家はその「資本」に於いて、協力合同し以て生産事業を發展せしめるやうな状態こそ、ムツソリーニの理想する産業國家でなければならぬ。けだし彼れは、人も知る如く

青年時代を革命的サンチカリストとして送りしが故に、三ツ兒の魄を今日に延長して「生産者本位の國家」を組織せんとしつつある。尤も、革命的サンチカリズムに於ける生産者とは、それ自體が労働者と同義異語に外ならぬが、今日の彼れは凡ゆる生産の寄與者といふ意味で、別に技術家と資本家とを包括して「生産者」の稱呼を附してゐる。斯くてそれは、舊サンチカリズムに對して新サンチカリズムと呼ばれ、同じ見地から國家サンチカリズムとも呼ばれてゐる。

新サンチカリズムの見地に於いては、労働者と技術家と資本家とは相互に侵し侵されざる權利を以て保障される。三者は決して別個の「階級」を代表するものでなく、唯別個の「部類」を代表するに過ぎぬ。國家に對する義務の關係は三者とも等一であり、いづれが上でいづれが下といふ相違もない。各個の部類は各個に與へられた義務を實行することに依り、祖國への忠勤を間然なからしめるのみである。

フアスシスト・イタリアの政治組織が、極端に中央集権的であることは何人も知悉するところであらう。然るに他の一方、その経済組織は斯くの如く分権的である。即ち、それらに必要なる自主権を保留した三個の國民聯合——労働、技術、資本の産業的國民聯合が國家の最高機關たる組合内閣に直屬し相互に侵し侵されざる關係に於いて特立してゐるのである。

一人の徒食者をも認めざるフアスシスト・イタリアにあつては、各人はいづれかの意味で生産事業に従事せねばならぬ。労働者としてか、資本家としてか、或は技術家としてか、三者その一を撰んで國民的義務を履行するのである。これら三個の部類は、従事する職業關係と居住する地域關係とに依り、それら國民組合を形成してゐるが、それらの國民組合は相合して、謂はゆる國民聯合に統轄される。例へば、資本家側の雇主聯合なら工業、農業、商業、海運業、陸運業、銀行業といつた國民組合に分岐し、その國民組合も工業國民組合なら工業

國民組合で化學工業、生糸業、棉花業、機械工業、鑛業、雜業等の小組合に分轄されてゐる。労働者の被備人聯合も大體これと大同小異であり、技術者の専門家聯合は、學者、文士、畫家、技師等を始め凡ゆる種類の頭腦的職業者が包括される。

小組合が大組合（國民組合）に聯合し、大組合が國民聯合に統轄され、三個の部類は特立の權利を保有しつつ鼎立するが、しかしこれは決して相互の利害對立を目的としてゐるのではない。寧ろ却つて、階級的調和を促進せんがための手段に充用され、各關係組合は雇主と被備人とに於いて相互の聯絡機關を設け、事端の發生を未然に防備すべく用意されてゐるのである。これは、産業組織に於ける労働、技術、資本の三權分立と評すべきであらう。

産業上の斯くの如き三權分立的傾向は、如何にもサンチカリスムのな特色と見られる。けれども、右の分立的三權は産業組織のみに於いて認容されるところで、政治組織の上に於いては單一なる組合内閣に隸屬する限り、必ずしも不可侵の特立的權利を保有してゐるわけ

はない。政治上と共に経済上の實権は組合内閣に歸屬し、その首班たるベニトー・ムツソリ
ーニの個人的権力に集中されてゐる。これは、最高権力を指揮するムツソリーニの獨裁專制
を認容することに依つて、反對の經濟勢力を抑壓すると同時に、同盟罷業等を惹き起す餘地
なからしめた周到な用意であつたとも解せられるであらう。

X

産業國家の建設を理想とするフラスシスト・イタリヤであるから、經濟的單位たる組合は
同時に政治的單位でもあり得る。随つてまた、地理的區分を單位として選出された現在の議
員及び議會を重視せず、寧ろ有れども無きが如く振舞へる事情も察し得られる。曩に勞働者
代表を上院に入れ、今また選挙法を改正して組合代表に依る一院制度を確立せんとするムツ
ソリーニは如上の意味に於いて産業國家の建設に百尺竿頭一步を進めたものと見てよい。外
電の報ずるところに従へば、地域代表を廢し職能代表を以て議會を構成せんとするムツソリ

ーニの提案は幸か不幸か、インマヌエル陛下の頑強な反對に會つて目下行き悩みの状態だと
傳へられる。同時にまたムツソリーニは飽くまで素志の貫徹を期してゐるので、ために皇帝
の退位を見るかも知れぬとさへ傳へられつつある。眞偽は知らず、しかしムツソリーニの人
物思想を知り且つその主義政策を知る程の者なら、凡ゆる周圍の反對に抗爭しても、組合代
表を内容とする一院制度の議會を作り上げはしないかと考へられる。

地域代表と職能代表との利害得失は別問題として、ムツソリーニが一切の寄生者を絶滅せ
よといふモットーを掲げ、憲法を改正してまで職能議會を創成せんとする意氣は、日本の自
稱ムツソリーニストや自稱フラスシストの窺ひ得ざる境地である。況んや、フアクタ内閣を
倒壊すると同時に、資本に對する高率課税とか、八十五パーセントの戦時利得税徴收とか、
僧侶の全財産沒收とか、どこから見ても社會主義者の口吻と少しも違はぬ政策を提示して降
らなかつた事實を知るなら、そんぢよそこの資本家的番犬に過ぎぬ和製黒襦袢衣連は、恐ら

く事の意外に看板の取り外しを申し出るであらうと思ふ。

以上はフアスシストの建設的方面に關して、僅に片鱗の片鱗を傳へたものに過ぎぬ。蜷川博士流の論客は、故意か無意かムツソリーニの政治的英雄主義のみを紹介し、最も肝腎な彼の産業政策に關しては全く沈黙を守つてゐる。ムツソリーニは素より社會主義者ではない。然り彼れは、當時流行の國家無視的社會主義者でないが、しかし實質的にはよく社會主義の長所を採用し、以て『強大にして優良なる労働の創成』に努力を傾注しつつある。數年前の赤色組合員の殆ど全部がフアスシスト組合に轉化され、新フアスシオとしてムツソリーニを支持すること毎日に濃厚を加へつつあるを見ても、彼れが決して世の謂はゆる『反動』主義者に非ざることが明瞭であらう。

三、國家サンチカリズム

X

フアスシズムといふからには、フアスシオの捧示するイズムを指すことにならうが、嚴密にいふと、體系化された理論は彼等の間から發見することが出来ない。現に、御ン大のムツソリーニは『思想を無視するところの思想』を看板にしてゐるし、彼れに追隨する一味徒黨も、親分の揮ふ一本の指揮棒に統轄された大管絃樂團だから、何にも彼れにも行動第一が主義である。殊にはまた、フアスシオといふ言葉はイタリア語で『束』を意味し、薩州鹿兒島は健兒社の『社』に該當するとあれば、コムニニズムのアーキズムのといった場合とは根本的に話しが違ふ。

そこで若し強て彼等から主義らしい理論特色を抽出さうとすれば、彼等の行動の跡を辿つて『かうもあらうか』と鑑定してやる外はない。さうした親切者の一人が、フアスシズムを定義して『國家サンチカリズム』と呼んだ。なるほど巧いことを言つたと感心してゐる。

國家主義とサンチカリズムとは、氷と炭よりも相容れない兩極の概念を指示するものとされてゐる。一方が集中主義で他方が分散主義、また一方が保護主義で他方が自由主義、どつちから見ても『同居お断り』の代物であるが、ムツソリーニは平氣でこの吳客と越客とを同居させてゐる。面白いといへば面白いやうなものの危ツかしいといへば危ツかしくもある。何故にファスシズムは國家サンチカリズムであるか。政治上には極度な集權主義を採るに反し、經濟上にはまた極度な分權主義を主張するからである。

政治上の集權主義については、ファスシオの運動それ自體が、國難の救済を叫んで起つた限り當然であらうし、圓錐塔の頂點に自己の位置を確保するムツソリーニが存在する限り、當然斯くなるべきが歸結である。新聞電報の謂はゆる『彈壓』が彼等の行動の全部を特色づけてゐる。然るに、政治上では斯くの如く反自由主義の態度を濃厚たらしめたにも拘らず、

資本私有と個人企業に立脚する自由主義を高唱し些かならず首鼠兩端の傾きが發見される。そこに本質的な矛盾がありはしないかと思ふが、兩端には兩端だけの理由があつたことも認めてやらねばならない。それはどんな理由であつたか？

元來、イタリヤといふ國は小黨亂立の旗頭で、内閣の首座は猫の目の如く變轉し、政局の安定はつひぞ望まれさうもなかつた。多感熱情のムツソリーニは、嘗て社會黨一方の領袖として議席にも就いてゐたが、議會政治の弊害を心の底から痛感したものでらしい。『議會政治は歴史の創造的因子たる個性を窒息せしめて、國家の制度を機械化せんとするものである』と稱し、やがて『ファスシスト革命の意義は、國家メカニズムから國民を脱却せしめ、個性尊重主義に立つ偉大なる人格者をして、國家に活力を附與し得るところの政體を樹立するにある』と唱へ、英雄獨裁主義の確立に我れと我れ自らを傾注したのである。

メカニズムを斯くの如く呪咀する他の一面は、青年時代に受けたサンチカリズムの思想に

蒙る影響も多い。サンチカリズムは行動の理論であり、情意主義の哲學を奉ずるものであつて、マルキシズムの歴史的必然論と、また随つてその理智主義とから背反した社會主義の一派である。彼等はその意味で、個人的努力の有力性を認めると同時に、前者の集中主義に對し無政府的分散主義を強調する。ムツソリーニに培はれたこの思想が、凝つては政治上の獨裁主義となり、發しては經濟上の分散主義となつたのであるが、異端なりにも三ツ兒の面影を見るに難くない。いみじくも『國家サンチカリズム』とは評しけるぞ。

四、フアスシズムの産業政策

X

彈壓宰相ムツソリーニに對する個人的興味の發揚と同時に、フアスシスト・イタリヤに對する我が國民的興味も次第に増大して來たかのやうに見受けられる。然しさうした興味も、

主として政治的方面にばかり限定されてゐるやうで、産業的方面は殆んど閑却された憾が多い。寧ろ一般の人々は、政治上の集權主義に併行して産業上の集中主義が強行され、勞働階級に對しては極度の脅嚇手段を發揮しつつあるかの如く考へてゐるらしい。これは大變な誤りで、フアスシスト政府は政治上に於いてこそ、成る程集權主義を採つてゐるものの産業上に於いては、反對に分權主義を採つてゐるのである。國家的サンチカリズムと呼び、フアスシスト・サンチカリズムと稱し、新サンチカリズムと唱へるのは、斯うした産業分産主義の傾向を指したものに外ならない。

元來ムツソリーニは歐洲大戰當時まで社會黨の領袖として知られ、ラテン諸國民の特質を如實に表明した革命的サンチカリズムの熱心な使徒だつた。年若くしてスピスを流浪せる當時に洗禮を受け、フランス亡命時代にはその理論的指導者たりしソレルと交はり、深くもこれに傾倒した結果「三ツ兒の魂」は今日においても失はずにゐたのであつた。サンチカリ

ズムは行動の理論であり、情意の哲學である。マルキシズムの社會的宿命主義を信ぜず、唯だ實行の力のみを信ずる。同時に、一切の政治運動を拒否し、經濟運動の一本槍で社會革命を斷行しようとする。随つて、産業上の集中主義と政治上の集權主義とは、彼等の最も嫌忌するところであつた。幸か不幸か、ムツソリーニの政治上の政策はマルキシズム以上の集中的事實に結果せしめたが、産業政策に於いては、舊套依然たる分散主義を採用してゐる。前者の社會主義サンヂカリズムに對して、フラスシオの一派がみづからを國家主義サンヂカリズムと呼び、新舊の區別を立てるゆゑんは茲に求められる。

サンヂカリズムに於ける新舊の兩派は、斯くして資本私有と個人企業とに立脚する現行制度の賛否を兩端ならしめた。即ち、前者がこれを積極的に破壊せんとし、後者がこれを消極的に支持せんとする相違である。フラスシオによる國民革命が、ポリシエキーキのそれに劣らぬ意義を附與してゐるに拘らず、反動革命の資本擁護のと攻撃される所以もそこにある。

X

『祖國の富強なくして國民の幸福なし』といふフラスシオ的スローガンに従へば、國家の政治的強大と經濟的富裕とのみが、國民的福祉の保障をなし得るゆゑんでなければならぬ。ムツソリーニは右の見地から政治上の集中主義を有利と觀察すると同時に、經濟上に於いては分散主義を有利と打算したものであつて、一見いかにも首鼠兩端するが如き政策を併用したのも、偏へに國民的福祉の増大に貢献すべしと確信したからであらうと思はれる。果して然るか否か、これは俄かに豫斷を下し得ない事情もあるが、然し資本家とか労働者とか技術家とか、さうしたいづれの『部類』にも權力の主體を置かず、包括的一體としての『國民』的觀點に於いて共勞共働を奨励したのは、確かにムツソリーニらしい卓見と言ひ得よう。

フラスシオ・イタリヤの産業組織に於いて、最も有力な特色を決定してゐるのは、それが労働、技術、資本の産業的國民組合によつて構成される一事に外ならない。この三個の國民

組合（國民聯合）は相互に明別された體系を有するもので、それ／＼の組合（聯合）はそれ／＼に必要な自主權を保留し、而も合體して國民最高機關——即ち組合内閣に統轄されてゐる。内閣の首班はいふまでもなくムツソリーニであるから、彼れを圓錐體の頂點として相互に特立の權利を保有する三個の「部類」を代表する國民組合が、相互に侵し侵されざる關係に於いて鼎立してゐるのである。「イタリア國民を強大にし、繁榮にし、自由にする」といふ唯一の理想の下に、彼等は「國民的義務」として共勞共働の實果を強制されねばならない。「我等の理想とする國家は、總ての人間が進んで働らき、一人の徒食者をも存在せしめざるそれである」とムツソリーニはいふ。イタリア國家の現在が、果して彼れの理想する如き状態にあるか否かは知らない。然し少くとも、次第にそれへ接近しつつあることだけは窺ひ知られる。資本家も技術家も労働者も、各自の部類に於いて進んで働らく以上、いづれが優遇されいづれが虐遇されるといふはずはない。今や、イタリア國家はそれ自體が一の生産業

者たるのみならず、尙また凡ゆる産業會社の大株主兼管材者ともなり、國民の全經濟的活動を調節し支配することを最上の任務としてゐる。彼等の謂はゆる新サンチカリズムの名稱にふさはしき産業國家は、斯くして次第にその礎地を築き上げつつある。

X

フアスシスト・イタリアの産業組織の基礎となり、同時に政治組織の單位をなす國民組合（國民聯合）なるものは、その意味に於いて注目に値する。先づ資本家側の雇主聯合を見るに、これは職業の別によつて工業、農業、商業、海運業、陸運業、銀行業といふ七種の「國民組合」に分岐し、この國民組合の内部分にまた各數種の小組合に分れてゐる。例へば、工業國民組合の中に、化學工業、生糸業、棉花業、機械工業、鑛業、雜業等の小組合がある如くである。被傭者たる労働者聯合にも、大體に於いて資本家聯合と同様の分岐があり、筋肉的並びに頭腦的労働者が、これに参加し、資本家組合に對陣してゐるかの如くであるが、階級闘

争を目的とせざることは言ふまでもない。寧ろ却つて、階級調和のために利用され、各關係組合は雇主と被傭人とに於いて相互の連絡機關を設け、事端の發生を未然に防備すべく用意されてゐる。

技術家聯合は謂はゆる専門家聯合であつて、これは技術者國民組合、藝術家國民組合、技師國民組合の三つに分れてゐる。それ／＼に小組合があること前記二聯合と變りなく、第一者には學者、技師、技手等を包括し、第二者には文藝家、美術家等を網羅し、第三者にはそれ以外の専門家が統轄されてゐる。技術家聯合も關係範圍内に於いて、連絡機關に参加すること素よりであつて、これらの國民組合（聯合）は、相互に特立する體系を保有しながら組合内閣の支配に置かれること、前述の通りである。産業組織に於ける労働、技術、資本の三權分立は斯くしてその政治組織となるに及んで組合内閣の一權に集中され、而して最高權力を指揮するムツソリーニの獨裁專制を認容することにより、反對的經濟勢力を抑壓すると

同時に、同盟罷業を惹き起す餘地をなからしめたのであつた。一見いかにも兩端する如き産業上の分權主義と政治上の集權主義ではあるが、以上の意味では當然の政策を當然に行つたと見ることも出来るであらう。

X

「階級闘争は舊時代の舊思想である」とは、ムツソリーニ及びその一黨が口癖のやうにいふ文句である。眞偽の穿鑿は別問題だが、祖國の富強なくして國民の幸福なしと見る解釋には、おのづから別個の眞理がなければならぬ。特にイタリヤは、天然の資源に恵まれることと薄く、産業は萎微して振はず、戦後の國力疲弊はさらでだに甚だしく、失業者の洪水が各地のストライキと工場占領を病的に流行せしめるといふ状態にあつたから、ファシオ的愛國運動の旗印が天下を風靡したのも當然であつた。階級闘争の思想が舊いとか新らしいとかいふ意味でなく、當然の亡國を招來すべき餘りにも明白な弊害を目前の階級闘争によつて見

せつけられたので、上下ともに國民的協同の必要を痛感してゐたのである。

イタリア國家を強大ならしめるには、先づ何よりも經濟的効果を擧げなければならぬ。それには物資供給の地を獲得しなければならぬ。ムツソリーニは斯くして對外硬政策を採り、トリポリ、アビシニア、モロッコ、タンヂール、アルベニア等諸方面の植民的領域の開拓を企てたのである。「尙くも經濟的及び精神的膨脹を望む凡ゆる生活の基礎をなすものは帝國主義のみ」といふ鼻息だから、一切は推して知るべしであらう。同時に對内的にも經濟機能の改善を圖り、鐵道政策を改良し、金屬工業を奨勵し、電氣事業、石油事業等を補助し、さては行政、財政、税制を根本的に刷新するなど、矢繼早やに新政策を實行して僅か數年の間に全く見違へる程の業績を擧げ得たのである。のみならず、ファクタ内閣を倒して最初に政權を取つた當時は、資本に對する高率累進課税とか八十五パーセントの戰時利得税徴收とか、僧侶の全財産押收とか、どこから見ても社會主義者の口吻と違はぬ財政政策を掲げてゐたに見

ても、彼れが資本家擁護に傾き過ぎるといふ非難の當らざることが知られやう。尤も、この「進歩的政策」は即時實現を見るに至らなかつたが、ファシズムが社會主義と正反對の概念を代表するかの如くに見る考へ方は訂正しなければなるまい。寧ろファシズムは、最初の間こそ暴力的であり、「反動的」でもあつたが、國內の統制が得られると共に次第に建設的な面目を加へ、社會主義の理想する政策を實質的に施行しつつある事實さへ認められる。

ポリシエキーキ・ロシヤの次第なる後退に對してファシスト・イタリアの次第なる前進は好個の對照をなしてゐる。勿論、兩者に於ける一方的後退と他方的前進とは、永久に一致點を見出だし得ないのは明瞭であるが、「働らかざるもの食ふべからず」のモットーと、「一切の寄生者を絶滅せよ」といふモットーとが共一の思想を指示する限り、かなり接近した歩み寄りが見られぬとも限らないであらう。

先に労働者代表を元老院に入れ今また選挙法を改正して組合代表による一院制度を確立せんとするムツソリーニは、彼れを單に『反動派』としか考へ得ない多數の人々に奇異の感を抱かせつつある。だが、昔ながらのサンチカリスト的氣魄が失はれず、イタリアをして一大産業國家に築き上げんとする願望を知る程の者なら、寧ろ却つてそれを當然と認するであらう。前述せる如く、イタリア國民は今やすべて國家の管理の下に組合制度を組織し、而して各人それ々の職業に従事してゐるのである。組合代表が國民代表でなければならぬとすれば、それと同時に相對立する二院を存置する必要を認めぬはづである。ファスシズムに於ける投票權は、デモクラシーに於ける如く『市民として』の權利とは認められず、これを『生産者として』の權利として認めることになつてゐる。この概念に従へば、生産に従事せざる寄生的人物は、如何に個人的に優秀だつたところで、彼れが生産に寄與せざる一事によつて選挙權を拒否されねばならない。頭腦的なる筋肉的なるとは問はぬが、兎に角、生産的労働

に従事しなければ、政治上の權利まで剝奪されてしまふのである。

ファスシストの謂はゆる組合國家は、その政治的特質を生産者本位といふことに置いてある。この一事は、イタリアの産業政策が確乎たる『原理』の上に展開されてゐることを語るものである。内閣の組合省は各個の産業組合を統轄しその福祉増進局は鋭意労働者の肉體的精神的福祉の増進を講究しつつある。即ち、職業補習教育の施行、家政經濟の教授、労働者庭園の増設、農村工業の奨励等を始め、各種各般の保護施設が大規模に國家の手で行はれてゐるのである。ムツソリーニの理想は、これによつて『強大にして優良な労働を創成』すると同時に、また『勞資間の關係を圓滑』ならしめんとするにあつたが、その効果は著しく現はれたと自讃してゐる。數年前の赤色組合員の殆ど全部をファスシスト組合員たらしめ、新ファスシオとしてムツソリーニを支持すること日毎に濃厚となりつつある事實を見れば、必ずしも一流の大言壯語とばかりいへないであらう。

以上、ムツソリーニの産業政策として美點ばかり算へたやうだが、フアスシストといへば労働暴壓を商賣にしてゐるかの如き誤解が横行してゐる當節、賞め過ぎても貶し過ぎるよりは正鵠を傳へ得たと自認してゐる。

五、ムツソリーニを見る

X

ムツソリーニの人氣は當伏隨一である。特に日本に於いては、現に生ける人物として、彼れの如く素晴らしき海仰者を有つ者は見當らない。先達て某雑誌が、文筆關係者だけの人氣投票を募集した際にも、彼れベニトー・ムツソリーニの名を擧げる者が壓倒的に多數であつた。寧ろ社會主義的な雑誌として知られた「改造」ですら、廉價普及運動の第一着手に彼れの人氣を利用する必要が迫られ、斯くいふ不肖が巻頭に「ムツソリーニの思想と風格」を紹

介したことがある。それに機縁してか否か、彼れに關する評論乃至感想の執筆依頼を受けたこと昨年だけで十數回、我れながらムツソリーニの「専門家」らしくなつたのを苦笑してゐる。

ムツソリーニといへば、破落漢の親玉で、反動派の大將で、赤化暴壓の殊勳者で、それだけ資本家本位で、労働者迫害の張本人だと考へてゐた一般常識は對し、私の如上の執筆は、多少なりとも誤解の拂拭に貢献したことを自認する。勿論、さうした非難は必ずしも失當でないが、これは初期の破壊時代に加へらるべき批評であつて、現在の建設時代に處するムツソリーニは社會主義的政策の實質を取つて労働者を階級的專制に走らしめず、資本家も「生産者」といふ意味で重視し、殊に中産知識階級の使命を確認してその社會的地位を高上するなど、一種獨特の新社會を造り上げたために懸命なのである。ポリシエキ・ロシヤが「働かざるもの食ふべからず」を標語とするに對し、フアスシスト・イタリヤは「國民に徒食

者を認めず」といふことを標語にしてゐる。文句の表現は違ふが、内容は同一の理想を表示したもので、そんぢよそこらの自稱國士や財閥用心棒などは、雪と炭よりも遙か以上の間隔がある。

赤色暴威を彈壓するためには、一旦の非常手段も敢て辭さなかつたのであるが、それもこれも、祖國イタリヤの國民的福祉を確保する手段に過ぎない。日備取り根性の暴力團などがさうした外形的なものばかりを模倣し、ブローカー稼ぎの是認的口吻に逆用するなどは、棄て置きがたきムツツリーニ胃潰といはねばならない。然し實際に於いて、彼れに對する日本人の理解は悲しいかなその程度を出でない。局部的一面だけの理解、盲人が象の耳だけ探りまるで團扇のやうなものだと思つてゐるに齊しい。

ムツツリーニを「見る」に當り、何故こんなことを前置きするかは、本文の最後まで讀めば、おのづから明瞭とならう。

X

ムツツリーニを「見る」といつても、實は映畫を通しての話である。決して現物を見た譯ではない。

ムツツリーニの映畫は、前後通じて二回これを見たことがある。最初は一昨々年、それも押し迫つた十二月二十三、四日頃であつた。所は淺草の東京館、題名は「永遠の都」といふので、チラリと瞥見したに過ぎない。當時の印象は、前にも記したが、念のため拔萃して見よう。

「……臙げな視力を通して瞥見し得た印象は、一言に盡せば妙に怪物染た感じだつた。普通の人間に比較すると、顔の造作ばかり厭に大きく、蛞蝓を二つ重ねたやうな上下の唇を動かす、面積的にも巾廣で部厚な手を振り、その顔に比較して尙且つ大きい例の白眼を剝かれた時など、どうやら梅幸の四谷怪談を見るやうな無氣味さを覺えた……」

實際その通りであつた。ところが今度、田口商會に依つて輸入された『ムツソリーニ』を見るに及び、どうやら多少の訂正を加へなければならぬやうな氣もしてゐる。尤も今度の映畫に於いても、最初の、新聞を讀んでゐる場面とか、群集に向つて演説してゐる場面とかに於いては、前と同様な畸形的な無氣味さを印象づけられたが、何がさて英姿爽壯たる觀兵式の連續として男振りは數段あがつて見られたことを悦びとする。

映畫『ムツソリーニ』の前受けは素晴らしかつた。新聞では田中首相へ獻贈したものと書き立てたし、有意か無意か、ムツソリーニの一代記であるかに宣傳したので、彈壓宰相の公的生活は素より私的生活まで、詳さに寫し撮つたのだらうとの期待を懸けさせるに充分であつた。御多分に洩れぬ筆者なども、上映の日をもどかしく待つてゐたのであるが、どうした手違ひか、來週また來週と豫定の變化があり、たうとう封切は東京でも大阪でもされず、神戸でなされたといふ評判であつた。巷談の途説は遽に信ずる譯には行かぬが、何でも『田

中首相へ獻贈』といふのが商會側の宣傳で、政友會院外團が事實無根を指摘してネチ込んだ結果、東京でも大阪でも豫定變更を餘儀なくされたのだといふ。眞偽は知らず、實際に『ムツソリーニ』を見るに及び、如何さま有り得べき事件だと想像された。それ程この映畫は、宣傳と實際との距離が遠く、單に記念的に撮影した實寫をツギハギ的に編輯したものに過ぎなかつた。

X

實寫であるだけ、ムツソリーニその人の風貌を見んとする人に取つては、或は却つて便利だつたかも知れない。けれども、七巻を通じて悉く兵員と黨員との檢閲式ばかり、退屈きわまりしことを遺憾とせねばならない。尤も部分的には、映畫としての効果を收め得た場面も少くはなく、巧まざる中に群衆の使ひ方など、商品映畫には見られざる眞率さと嚴肅さをおのづからに看取せられた。殊に故郷ブレダツピオの村で、ムツソリーニ自身が鋸を取り録

を入れてゐる部分に於いて、最初は如何にも荒廢に歸したらしい北部イタリヤの田園を偲ばせ、次の情景で、豊饒に實つた見渡す限りの小麦畑を大寫して見せたところなど、寧ろ「藝術」的でさへあつた。

これはムツソリーニ一流の政策、即ち國產獎勵の宣傳的效果に副はしめんとしたものであつた。だが、戰債問題に絡んで如何にイギリスが小麦の輸出禁止を以て威嚇したか、イタリヤ人はこれに對して、如何に彼等の常食を彼等の國內で生産しなければならぬ必要を痛感したか、總てさうした主題的效果に於いてよりも、却つて藝術的效果に於いて成功してゐたのである。然し、それらは謂はば砂中の金であり、爾餘の大部分は、繰り返し蒸し返し、同じやうな觀兵式的場面を連続するに過ぎず、義理にも「面白かつた」とは言ひがたい。

その第一の理由は、筋といふ筋がなかつたことに原因する。勿論、斯うした断片的な實寫を繋ぎ合はせたのだから、これに「筋」を要求するのは、最初から誤りといふことも出来る

であらう。然し、米國製活劇や、日本劍劇に養育された一般ファンに取つては、木戸錢を拂つた上にこんな退屈な映畫を見せられてはの後悔もあつたことと思ふ。筆者もその一人だし同行の一友も同じ不平を滾してゐた。觀客吸収に眼のなき興業者が、如何にも興業價值的に宣傳したのを眞に受けた當人に罪ありとはいへ、こんな調子では、院外團に暴れ込まれてもよささうな羊頭狗肉であつたらうことも首肯させられた。

だが、それよりも遙かに増して不愉快だつたのは、字幕の文字と辯士の説明とがヨクすぎた點である。その段も、今更らしく責め立てるには及ばぬ話しかも知れないが、それなりにムツソリーニズムとかフラスシオ運動とかに對し、如何に日本人の理解が淺薄であるかの證據を見せつけられたやうで、少なくとも私一個に取つては餘り愉快な感じがしなかつた。

X

元來、この映畫は最初十一卷物だつたさうである。それを活辯界の新知識藤波夢鳴君が七

巻に縮め、日本文のタイトルを附して市場に出したのだとか。割愛した部分がどんなものだったか、恐らく餘りの退屈さを心配して壓縮したものと思ふが、それにしても尙この退屈さはどうしたと反問したくなる。尤もこれは、編輯者夢鳴君の責任とばかりもいへないのみならず、頭も尻もない實寫の羅列を兎に角もあれだけに纏めた手腕は敬服すべきであり、字幕の如きも、他の何人かの手に依つて書かれるよりは、確かに低能的でなかつたに違ひないと思ふ。が、それにしても尙、救はれざる臭味と無理解は否むべくもない。

先づ第一に、フアスシズムの萬國的適用を高飛車に戒告した冒頭の一句である。あれで見ると、甚だデモクラ的理想の渴仰者らしく想像されるが、續いて出る文句は、悉く黒襪衣的彈壓政策の讚美ならぬものがない。それも悪くはない。唯だ「京洛の巷は今や……」式の劍劇的明文が、餘りに作品的で且つ和製的であり過ぎた爲め、恰も彼れムツソリーニが我が維新的尊王攘夷論者でもあるかの如く戲畫化されてゐるには困つた。

維新の尊王攘夷的英雄も、素より偉いにはちがひない。然し、ムツソリーニの『偉さ』は時代的にも國情的にも、根本的に違つた本質に立脚する偉さである。斯うした『偉さ』の本質に對する無理解が、滔々として暴力團的看板に利用されたり、職業的國家主義者のマスコットに擔ぎ上げられた所以であるが、幸か不幸か、説明界の新知識藤波夢鳴君の理解も、それらの暴力團員や愛國業者の頭腦を一步も出で得なかつた。演説の場面に於いて、ムツソリーニの警句を引照したことは思ひつきだつた。恐らく彼れは、ムツソリーニに關する幾多の參考書を書き、これはと思ふ名句を、拔萃したのであらう。然しどうせの思ひつきなら『祖國と共に榮あらずんば我等の幸福も平和もなし』とか、或は『我等は義務ありて權利なし』とかの類句ばかりでなく、他の一面も二面もある演説的名句を、何故にこれと一緒に拔萃して呉れなかつたのだらう。

前にもいへる如く、ムツソリーニは謂はば彙である。耳ばかり探つて團扇のやうだといは

す、他の特色たる鼻も足も牙も、更に皮も尾も共に探つて貰ひたかつたのである。商賣ちがひの夢鳴君を相手に、こんなダメを出しても始まらぬと思ふが、字幕の文句を自慢に吹聴してゐたらしいだけ、言はずもがなの憎まれ口も叩いて見たくなるではないか。

X

字幕はまだしも無難である。辯士君と來ては、字幕にありもしない蛇足ばかり加へ、愈ムツソリーニを漫畫化することに貢献してゐた。私の見たのは十二月一日夜の帝國館だつたが、下位春吉がダメンチオと「兄弟分」になつたり、ムツソリーニの「皇室中心主義」的熱誠を幾十度となく押し賣りしたり、時代と場面を錯誤するに忙がしさうであつた。甚だしきは、前記の最も藝術的な場面の説明に「これが有名な小麥戦争の話である」などと脱線しイヤハヤ目も當てられぬヨタ振りである。

さうかと思へば、プロには麗々しく「下位春吉氏監修」などと書いてある。フアスシオの

ローマ進軍から、第三回記念大會までの實寫に、日本人下位春吉が何んのための監修ぞ！下位氏は勿論、最も熱心なムツソリーニとフアスシオの紹介者であらうが、忌憚なくいへば氏は如何にも職業的紹介者である代りには、その團扇的紹介に依つて我國人の理解を偏破ならしめ、愛國業者の看板の利用を助長した傾きもなしとしない。素より、それとこれとは別問題だが、明白なウソ「下位春吉氏監修」などを書く度胸なら、必ずしも「田中首相への献贈」などと宣傳し兼ねざるべく、下司の智慧と罵倒されても文句がないであらう。人を甘く見るにも程がある。

ムツソリーニの「皇室中心主義」にしても然り。彼れは決して、現王室を尊敬する念慮に於いて爾餘のイタリヤ人に劣るまいが、さればとて日本國民が皇室に對し奉る信仰的念慮などとは根本的な相違がある。ムツソリーニを完全無缺の偶像に造り上げるのはよいが、それがため我が國人の、萬古海外に比類を見ざる「皇室中心主義」を濫用するに至つては、最

眞の引き倒しである。ムツソリーニは七年前までは、最も熱心な共和主義者であつた。ファスシオ革命を断行してからも、さうした『三ツ兒の魂』は隨處に見られる。けれどもこれはムツソリーニがイタリヤ人なればこそ。日本人の常識では是非善悪を批判することは許されない。けだしイタリヤの現王室は、僅か六十七年前にサルヂニヤの一小王たる身で海内を統一したピクトリオ・エンマヌエルの子孫、随つて王室に對するイタリヤ人は、君臣一如にして三千年我が皇室に對し奉る關係と感情とに比し、根本的な相違があることを知つて掛からねばならぬ。故にムツソリーニが、假りに王室を中心とする行動に終始しなかつたとて、少しも不名譽とすべきでないのみならず、我々日本人としては、これを是正して始めて全幅的理解に到達し得るのである。

私が斯くムツソリーニを、決して『皇室中心主義者』と呼ぶべきでないと主張したに對し物の道理に空間的・時間的相違があることを辨へぬ福士某君は、激越的口吻を以て『傳統主義

者なるが故に皇室中心主義者だ』と反駁してゐた。戯談ぢやない。ローマ建國の昔に選つたら、そこに横はるのは明白な共和政治ぢやないか。興亡盛衰十百度、王室を代へること幾度か知らなかつたイタリヤ人が、傳統主義であればあるだけ、現在のサルヂニヤ王家を中心としなければならぬ理窟がなくなつてしまふではないか。

ムツソリーニに對する福士君の如きは、ミソもクソもアバタもエクボも一緒くたに禮拜する意味で、引き倒しに陥りし最眞の代表的な一人である。

X

ムツソリーニを『見る』に當り、第一回目と第二回目とに於て、印象を訂正する必要があることを断りながら、肝腎の問題となつて興へられし餘白の少くなつたことを遺憾とする。簡単に片づけてしまはう。

怪物染みた印象は、單なる程度の相違で二回とも變るところがない。然し馬子にも衣裳、

執政官の制服を着けて肥馬に跨がり威風堂々と四邊を壓倒し得れば、男前が數段上がつて見えるのも當然であらう。殊にムツソリーニは、有名な「將棋駒」のアダ名を所有してゐるだけ、底部が左右の顴骨突起によつて廣く、次第に上部へ向つて狹められると共に、額部のハゲが中間の半島形を残して抱狀の灣形をなしてゐるので、金ピカの帽子を冠つた方が立派である。加ふるに無帽で後向きになると、明けて四十五歳の壯年に拘らず、後頭部もまた次第に擴大する橢圓形として禿げつつあるため、どうやら後部にも「小さな顔」があるらしく思はれる。「太郎次郎聯隊旗」の童謡が喝破せる如く、まつたく「帽子かぶれば良い男」となつてしまふ。

脊は餘り高い方でない。肉附も大して肥滿せずガツチリした堅肉らしく、肩幅と胸幅は顔面と共に、その體軀に對して比例的大を特に感ぜしめる。眼も普通の場合に常人と變らないが、事務に精勵する時とか黨員に演説する時などは、文字通り「眼を剝く」といふ形容に相

應はしいほど大きく見開き、同時に眼光も爛々として威壓的であつた。演説といへば、彼の演説はジエスチユーアが大きく、口唇は筒狀に突起して、ヴォーカリストが腹一杯の聲を發する時と變りがない。聴衆は一言一句に拍手喝采を惜しまぬ熱狂漢、音に聞えた雄辯は彌が上に雄辯性を増大するであらう。

その他部分的に色んな特徴を見出したが、これは他日の機會に譲らう。唯一つ氣附いた點は、彼れが如何にも「稚氣愛すべき英雄」といふ印象である。哄笑は愚か微笑だにせず佛頂面に收まり返つてはゐるもの、おのづからなる愛嬌は受け取れる。この愛嬌こそ稚氣の發揚である。飛行機に乗つたり、乗馬で障害物を飛び越えたり、高等百姓をやつて見せたり、その他、等、等。天の作せる愛嬌はナポレオンの稚氣をさへ想像せしめるものがある。この稚氣あればこそ、今日の人氣を博し得たのであつた。映畫「ムツソリーニ」に於いて、彼れ特有の稚氣を發見し得ただけでも收獲、以て厭すべきであるかも知れない。

六、ムツソリーニは非「皇室中心主義」

X

「國家社會主義」といふ看板を掲げた私は、逸早くファスシスト扱ひを受けなければならなかつた。ところが最近、デモクラシーの總帥吉野作造氏や、日本農民組合の會長高橋龜吉氏や、さては共産黨の香宿山川均氏などまで、一律同列にファスシスト呼はりをされてゐると聞き、どうやら肩身が廣くなつたやうな思ひである。それで氣をよくした譯でもなかつたが悪友の誘ひを渡りに舟で淺草は帝國館へ「ムツソリーニ」を見物に出かけた。

「觀兵式と記念祭との實寫的連續で期待した興味は万分の一も酬はれなかつたが、お陰でムツソリーニの風貌だけは篤と拜見する光榮に浴した。その以前これも「永遠の都」と題する映畫の中で、ムツソリーニの片鱗はチラと瞥見する機會を得たのであつたが、當時の怪物的

印象に比較すれば些か凡物的印象を免れず、ただもう大層もない獨裁大王の稚氣と街氣に壓倒されるばかりであつた。否むしろ、それよりも壓倒されたのは、邦文で書いたタイトルに搗てて加へて辯士の説明である。先づ最初に、ファスシズムの萬國的適用を警戒すると、いとも親切な文句に始まり、下位春吉がダンヌンチオの兄弟分になつたり、ムツソリーニが熱烈な皇室中心主義者になつたり、呂律の程は甚だ頼母しからぬものであつた。下位春吉がブローカーでなからうと同様に、ムツソリーニは決して皇室中心主義者でなかつた。若し「熱烈」の言葉で評し得べくんば、彼れは寧ろ却つて共和主義者であり、唯だ便宜手段として皇室の存在を肯定すべきことを聲明した男であつた。最眞の引き倒しもよりけりである。それと同時に、上は山川均氏に於いても然るであらう如く、下は斯くいふ高島素之に於いても、世間の御最眞筋がせつかくムツソリーニ亞流を以て許して下さる御親切は感銘して忘れないが、時に全く引き倒しに類せざるに非ざること附記して置きたい。」

以上は去る十二日の「讀賣」に書いた「最良の引倒し」と題する僕の寸感的時評であるが、これに對し、同紙(十四日)に例の福士幸次郎君が反駁文を寄せ、ムツソリーニが「皇室中心主義」者なることを陳辯したやうである。當日、うっかり讀み落としたのでいま改めて駁論の駁論を書くのも氣がきかず、弛緩した呂律を正氣で相手にするのも氣がさすが、どうせの莫迦らしさ序に、もう一度だけ本欄の末席を穢さして頂きたいと思ふ。

音に聞こえた福士君ではあるが悪文といはうか悪腦といはうか、理窟のメリハリを發見するに甚だ困難であつた。が、憤慨の要點を拜察するに、ムツソリーニを共和主義者らしく吹聴すると同時に、下位春吉氏をブローカーらしく暗示した點が高島の「知つたか振り」だといふにあるらしい。だからこそ、高島の國家社會主義が「合理主義のヘーゲル思想」の亞流だつたり、また「正動思想はマルクシズムだといふのか」と思つてゐるのであらう。阿呆らしい。

更めて蒸返すまでもなく、あの一文は映畫「ムツソリーニ」の字幕と辯士とを彌次に發端したもので、田口商會乃至帝國館の廻し者ならぬ福士君あたりから他人の痲痛を頭痛に病んで頂かうなどは夢にも考へなかつた寸評である。「にも拘ら」ざるが故に、實は甚だ光榮に感じなければならぬ義理もあるのであるが、如何にせん光榮も過ぎたるは尙ほ及ばざるに如かず、飛んだ最良の引き倒しに陥りしを遺憾とする。

福士君の見解に従へば、ムツソリーニは傳統主義者なるが故に皇室中心主義者でなければならぬといふ。何故の傳統主義者なるかの證據は、彼れが「羅馬のラテン的また帝國的な傳統は今又加特力教によつて代表されてゐる。羅馬に目を注ぐ四億万人の大衆は、イタリヤ人であるところの吾々に取つては關心と誇りの一對象を構成する」といふ言葉を發し得たことに求めてゐる。福士君が「鬼の首」として紹介されたこの文句を俟たなくとも、ムツソリーニ